

平成 30 年度 事業報告書

平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会

はじめに

本資料は、公益社団法人 日本ファシリティマネジメント協会（JFMA）の平成 30 年 4 月 1 日より平成 31 年 3 月 31 日までの事業実施結果についてご報告するものです。

JFMA は、公益社団法人として平成 24 年 1 月 4 日に設立登記を行い、今期が 7 年目の業務実施となります。今期も、事業計画に基づき、JFMA 定款に掲げる 6 つの事業、すなわち、ファシリティマネジメントに関する資格認定、教育研修、表彰、調査研究、広報及び交流事業を確実に実施するとともに、あらゆる局面においてコスト削減に努力し業務を推進した結果、6 年連続の決算収支黒字化を達成することができました。

FM の新教科書『公式ガイド ファシリティマネジメント』を平成 30 年 1 月 25 日に発刊し、これらの紹介・普及のため、3 月から 5 月にかけて全国 9 か所の試験会場開催地で発刊記念セミナーを開催しました。これらをうけて、認定ファシリティマネジャー資格試験を 7 月 8 日に実施いたしました（広島会場は、豪雨災害により中止）。

第 13 回日本ファシリティマネジメント大会（ファシリティマネジメントフォーラム 2019）は、「For the Future! FM の未来 新たな価値を求めて 一時代が変わる。人・組織・社会を支えるファシリティマネジメント」をテーマに 2 月 20 日から 22 日の 3 日間、タワーホール船堀にて開催いたしました。

基調講演に、竹内弘高氏（ハーバード大学経営大学院教授、一橋大学名誉教授）および高橋正巳氏（WeWork Japan 合同会社ゼネラルマネージャー）、特別講演に、岩尾聡士氏（京都大学）、松岡利昌氏（松岡総合研究所）、鎌田道子氏（シスコシステムズ合同会社）、福西謙氏（内閣府）、佐竹健治氏（東京大学）、竹村公太郎氏（日本水フォーラム）、福原正大氏（Institution for a Global Society）および長谷川直哉氏（法政大学）と、貴重な講演をいただきました。また、3 日間で約 90 件のセミナー、シンポジウムを開催したほか、1 階展示ホールでは、26 社による「ファシリティマネジメント展示会」を開催、さらに、日本ファシリティマネジメント大賞（JFMA 賞）授賞式と講演会、ネットワーキングパーティ、アジア FM サミットを開催するなど、多彩なプログラムで構成した 3 日間では、セミナー参加者総数は、約 8,500 名で、好評裏に終わることができました。

FM のグローバル化も加速し、ISO 国際標準化に関しては、ISO41000 シリーズとして平成 25 年から開発、J FMA は国内審議団体として活動してきましたが、平成 30 年 4 月に ISO 41001（FM マネジメントシステム-要求事項と利用のための手引き）が認証規格として発行されました。平成 29 年 4 月に発行された ISO41011（FM-用語集）、ISO41012（FM-戦略的業務委託と合意書の作成に関する手引き）とともに FM の ISO が体系化されました。

セミナー関連につきましては、ウィークリーセミナーや初級 FM スクール、サマースクール、財務セミナー、ISO セミナーをはじめ、公共インフラマネジメント連続シンポジウムを 9 月から 12 月まで連続 4 回開催するなど、活発に FM の普及活動を展開しました。

さらに、出版についても「健康経営とワークプレイス」「ISO41001 ユーザーズガイド 2018」

「未来を拓くファシリティマネジャーの皆さまへ」「認定ファシリティマネジャー資格試験問題集 2019」等発刊し、例年に増して FM 普及活動が展開できた一年であったと考えます。

第1号議案 目次

《平成30年度 事業報告》

I. 法人の概況

1. 設立年月日	7
2. 定款に定める目的	7
3. 定款に定める事業内容	7
4. 所管官庁に関する事項	7
5. 会員の状況	7
6. 主たる事務所	7
7. 役員などに関する事項	8
8. 職員に関する事項	8

II. 事業の状況

1. 総会及び理事会	9
2. 委員会（詳細付1.参照）	10
3. 事業内容（公益目的事業）	12
3. 1 ファシリティマネジメントに関する資格認定事業（詳細付2.参照）	12
3. 1. 1 認定ファシリティマネジャー資格試験	12
3. 1. 2 認定ファシリティマネジャー資格登録	12
3. 1. 3 認定ファシリティマネジャー資格更新登録	12
3. 2 ファシリティマネジメントに関する教育研修事業（詳細付3.参照）	12
3. 2. 1 初級FMスクール・セミナーの実施	12
3. 2. 2 日本ファシリティマネジメント大会（ファシリティマネジメントフォーラム）でのセミナー	12
3. 2. 3 ウィークリーセミナー	12
3. 2. 4 専門分野別特別セミナー	13
3. 2. 5 ファシリティマネジメント上級セミナー	13
3. 2. 6 公共向けFMセミナー	13
3. 2. 7 FMサマースクール 2018	13
3. 3 ファシリティマネジメントに関する表彰事業（詳細付4.参照）	13
3. 4 ファシリティマネジメントに関する調査研究事業（詳細付5.参照）	14
3. 4. 1 調査研究部会	14

3. 4. 2	ファシリティマネジメントのISO認証規格発行後の対応	15
3. 4. 3	海外ファシリティマネジメント視察調査団	15
3. 5	ファシリティマネジメントに関する広報事業（詳細付6.参照）	16
3. 5. 1	機関誌「JFMAジャーナル」の定期的な発行	16
3. 5. 2	Web版「JFMAジャーナル・オンライン」の運用	16
3. 5. 3	ホームページの運用	16
3. 5. 4	メールマガジンの定期的な発行	16
3. 5. 5	マスメディア、その他広くネットワークを持つ方法の活用	16
3. 5. 6	「ファシリティマネジメントフォーラム2019」スポンサー募集とガイドブック等発行	16
3. 6	ファシリティマネジメントに関する交流事業（詳細付7.参照）	16
3. 7	第13回日本ファシリティマネジメント大会（ファシリティマネジメントフォーラム2019）	17
3. 8	その他、本協会の目的を達成するために必要な事業	17
4.	事業内容（その他事業：相互扶助事業）	17
付.	目次	18
付1.	委員会	19
付2.	資格認定事業	22
付3.	教育研修事業	27
付4.	表彰事業	41
付5.	調査研究事業	46
付6.	広報事業	56
付7.	交流事業	60

《平成30年度 決算報告》

1.	決算報告書	62
2.	監査報告書	71
3.	独立監査人の監査報告書	72

I. 法人の概況

1. 設立年月日

平成 8 年 9 月 25 日（旧社団法人日本ファシリティマネジメント推進協会）

平成 24 年 1 月 4 日（公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会）

2. 定款に定める目的

本協会は、企業、団体等が保有又は使用する全施設資産及びそれらの利用環境を経営戦略的視点から総合的かつ統括的に企画、管理、活用する経営活動（以下「ファシリティマネジメント」という。）に関連する多様な活動分野の英知を結集して、ファシリティマネジメントの普及定着に関する事業を行うことにより、安全、安心、快適かつ機能的な施設資産の形成と活用を推進し、もって、良好な社会資本の整備及び地球環境の保全並びにわが国経済の健全な発展に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) ファシリティマネジメントに関する資格認定事業
- (2) ファシリティマネジメントに関する教育研修事業
- (3) ファシリティマネジメントに関する表彰事業
- (4) ファシリティマネジメントに関する調査研究事業
- (5) ファシリティマネジメントに関する広報事業
- (6) ファシリティマネジメントに関する交流事業
- (7) その他本協会の目的を達成するために必要な事業

4. 所管官庁に関する事項

内閣府

5. 会員の状況

平成 30 年度の会員移動状況は次のとおりである。

会員種別		平成 30 年 3 月 31 日 ①	入会 ②	退会 ③	差引 ②－③	平成 31 年 3 月 31 日現在 ①＋②－③
法人・団体	正会員	172	12	-7	5	177
	準会員	17	1	-3	-2	15
	小 計	189	13	-10	3	192
公 共 特 別 会 員		246	10	-1	9	255
合 計		435	23	-11	12	447
個人	正 会 員	30	2	-6	-4	26
	準 会 員	838	57	-65	-8	830
	合 計	868	59	-71	-12	856
総 合 計		1, 303	82	-82	0	1, 303

6. 主たる事務所

所在地：東京都中央区日本橋浜町 2-13-6 浜町ビル 6 階

7. 役員などに関する事項

平成 31 年 3 月 31 日現在を示す

役 職	氏 名	担当職務・現職
会 長	山 田 匡 通	株式会社イトーキ 代表取締役会長
副会長	牧 貞 夫	NTT都市開発株式会社 相談役
	大 井 清 一 郎	JR東日本ビルテック株式会社 相談役
	村 田 誉 之	大成建設株式会社 代表取締役社長
	岩 崎 芳 史	日本郵政株式会社 代表執行役副社長
	西 貝 昇	三菱地所株式会社 取締役 執行役常務
専務理事	成 田 一 郎	公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会 専務理事
常務理事	村 尾 幸 彦	公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会 常務理事
理 事	中 山 一 平	イオンディライト株式会社 取締役会長
	大 久 保 昇	株式会社内田洋行 代表取締役社長
	黒 田 長 裕	株式会社NTTファシリティーズ 代表取締役副社長
	賀 持 剛 一	株式会社大林組 執行役員 設計本部長
	中 村 雅 行	株式会社オカムラ 代表取締役社長
	井 田 卓 造	鹿島建設株式会社 建築設計本部 技師長
	黒 田 章 裕	コクヨ株式会社 代表取締役会長
	大 西 正 修	清水建設株式会社 執行役員 建築総本部 設計本部 副本部長
	寺 島 剛 紀	大星ビル管理株式会社 代表取締役社長
	道 永 剛	株式会社竹中工務店 FM本部長
	横 山 修 三	東急不動産株式会社 都市事業ユニット 渋谷プロジェクト推進本部 執行役員 本部長
	長 澤 泰	東京大学 名誉教授 工学院大学 特任教授・名誉教授
	八 木 秀 記	東京美装興業株式会社 代表取締役社長
	中谷 憲一郎	株式会社日建設 執行役員 プロジェクトマネジメントグループ代表
	金 子 豊	株式会社日本経済新聞出版社 代表取締役社長
	六 鹿 正 治	株式会社日本設計 最高顧問
	米 川 清 水	日本メックス株式会社 相談役
	木 下 達 司	一般社団法人ニューオフィス推進協会 専務理事・事務局長
	松 成 和 夫	プロコード・コンサルティング 代表
	板 谷 敏 正	プロパティデータバンク株式会社 代表取締役社長
	米 倉 誠 一 郎	法政大学大学院 教授 一橋大学 特任教授
	松 岡 利 昌	株式会社松岡総合研究所 代表取締役
	細 田 恭 祐	三井不動産株式会社 ビルディング本部 法人営業統括二部長
	森 浩 生	森ビル株式会社 取締役副社長執行役員
	染 川 聡 一 郎	リコージャパン株式会社 顧問 社会インフラ事業部
	田 中 淳	公益社団法人ロングライフビル推進協会 専務理事
監 事	秋 元 茂 樹	東京ガス都市開発株式会社 代表取締役社長
	野 村 春 紀	日比谷総合設備株式会社 相談役

注) 記載順序: 会長、副会長、理事及び監事の順、並びに、「担当職務・現職」の 50 音順

8. 職員に関する事項

16 名 (平成 31 年 3 月 31 日現在)

Ⅱ. 事業の状況

1. 総会及び理事会

1. 1 総会

今期は、次のとおり開催し、すべての議案を決議した。

第1回 通常総会	日付	平成30年 6月14日(木)
	場所	公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会 6階会議室
	決議事項	1) 平成29年度事業報告及び決算報告の件 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)
		2) 理事選任の件
	報告事項	1) 平成30年度事業計画及び収支予算の件 (平成30年4月1日～平成31年3月31日)

第1回 臨時総会	日付	平成30年 11月13日(火)
	場所	公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会 6階会議室
	決議事項	1) 理事選任の件

1. 2 理事会

今期は、次のとおり開催し、すべての議案を決議した。

第1回 理事会	日付	平成30年 5月17日(木)
	場所	ロイヤルパークホテル 2階 春海
	決議事項	1) 平成29年度 事業報告及び決算報告の件 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)
		2) 理事候補者選任の件
	報告事項	1) コンプライアンス活動状況報告
		2) 会員入会報告
		3) 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告

第2回 理事会	書面 評決日	平成30年 6月14日(木)
	決議事項	1) 役職理事(副会長)選任の件

第3回 理事会	日付	平成30年 10月16日(火)
	場所	ロイヤルパークホテル 4階 瑠璃
	決議事項	1) 理事候補者選任の件
		2) 臨時総会招集の件
	報告事項	ファシリティマネジメントフォーラム2019、協会各種活動現況など

第4回 理事会	日付	平成31年 3月7日(木)
	場所	ロイヤルパークホテル 2階 春海
	決議事項	1) 2019年度事業計画及び収支予算の件 (2019年4月1日～2020年3月31日)
	報告事項	1) 会員入会報告
		2) 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告

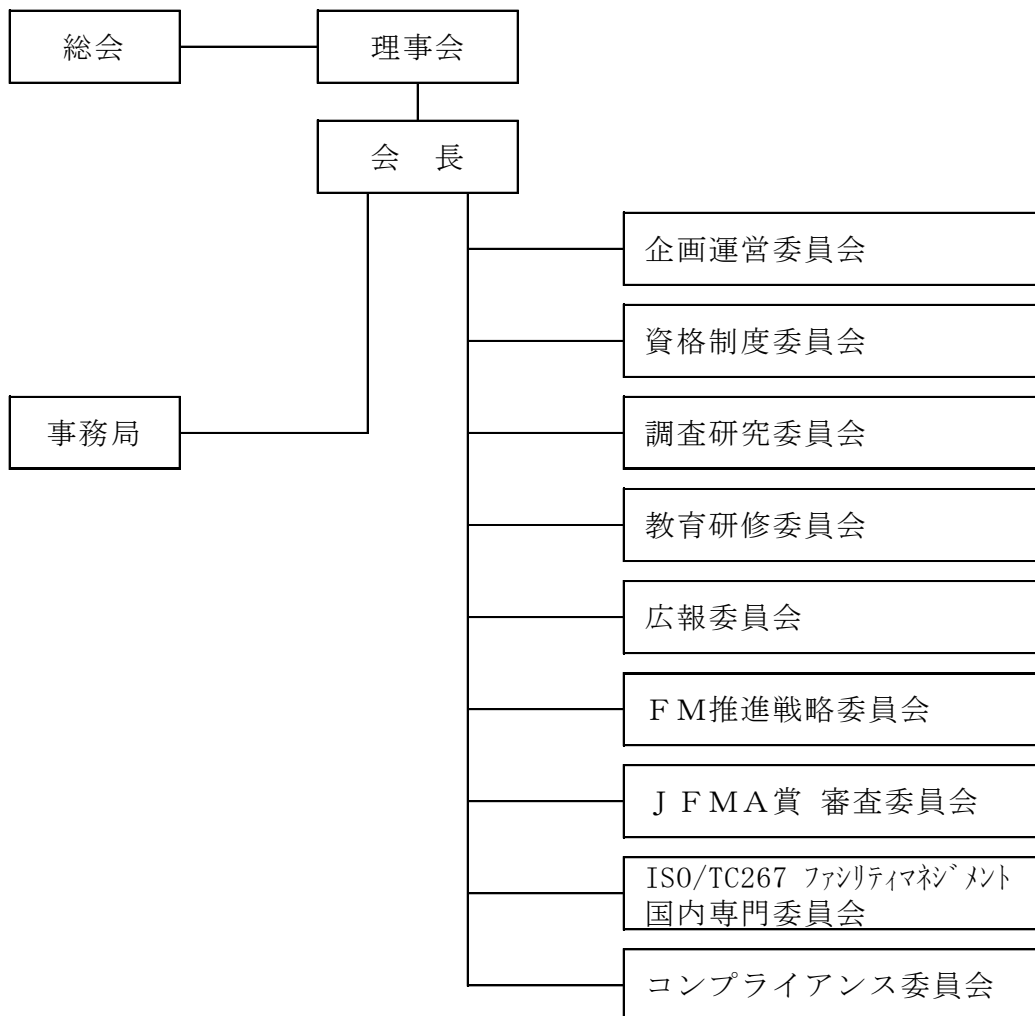
2. 委員会（詳細 付1.参照）

今期は、下記の委員会のもとに事業活動を展開した。

企画運営委員会		役 割	理事会機能を補完するもので、協会中・長期事業計画の策定、単年度事業計画の立案、理事会上程事項の立案、会長諮問事項の審議・答申、各委員会の活動計画の調整、その他協会活動の企画運営業務。		
		委 員 長	赤 川 寛	(株)NTT ファシリティーズ	
		副 委 員 長	重 綱 鉄 哉	(株)イトーキ	
			――	――	
		委 員	他 30 名		
資格制度委員会		役 割	F M資格制度全般の統括業務。		
		委 員 長	沖 塩 莊 一 郎	東京理科大学 名誉教授	
		副 委 員 長	横 山 計 三	工学院大学 教授	
		委 員	他 4 名		
試験委員会	委 員 長	横 山 計 三	工学院大学 教授		
	副 委 員 長	渡 辺 光	ソニーコーポレートサービス(株)		
	委 員 等	他、13 名（委員）、3 名（アドバイザー）			
更新講習委員会	委 員 長	松 岡 利 昌	株式会社松岡総合研究所 代表取締役		
	副 委 員 長	――	――		
	委 員	他 9 名			
調査研究委員会		役 割	F Mの活動に必要な知識・技術・手法の調査研究・開発の立案及び調査研究部会の企画・推進・調整業務。		
		委 員 長	似 内 志 朗	日本郵政不動産(株)	
		副 委 員 長	松 成 和 夫	プロコト・コンサルティング	
		委 員	他 16 名		
教育研修委員会		役 割	F Mに関する人材の育成と普及のための教育研修事業の企画・提言及び支援業務。		
		委 員 長	重 綱 鉄 哉	(株)イトーキ	
		副 委 員 長	山 村 晃 永	(株)NTT ファシリティーズ	
		委 員	他 4 名		
広報委員会		役 割	F M及び J F M A の活動の広報と広報戦略の企画・提言及び支援業務。		
		委 員 長	齋 藤 敦 子	コクヨ(株)	
		副 委 員 長	渡 辺 光	ソニーコーポレートサービス(株)	
		委 員	他 6 名		
F M推進戦略委員会		役 割	F M推進に関する戦略展開の企画・提言及び支援業務。		
		委 員 長	板 谷 敏 正	プロパティデータバンク(株)	
		委 員	他 9 名		
J F M A 賞 審査委員会		役 割	日本ファシリティマネジメント大賞（J F M A 賞）の審査。		
		委 員 長	北 川 正 恭	早稲田大学 名誉教授	
		副 委 員 長	深 尾 精 一	首都大学東京 名誉教授	
		委 員	他 9 名		

I S O / T C 267 ファシリティ マネジメント 国内専門委員会	役 割	F M の I S O 国際標準化のため、国内委員会を適時開催して、関連情報の共有を図るとともに、国内の意見を取りまとめ。		
	委 員 長	長 澤 泰	東京大学・工学院大学 名誉教授	
	副 委 員 長	_____	_____	
	委 員	他 17 名		
コンプライアンス 委員会	役 割	コンプライアンス施策の検討と実施、及び実施状況のモニタリング。コンプライアンス違反事件についての分析・検討、再発防止策の策定。		
	委 員 長	成 田 一 郎	J F M A 専務理事	
	副 委 員 長	_____	_____	
	委 員	他 7 名		

J F M A 組織図（平成 30 年度）



3. 事業内容（公益目的事業）

3. 1 ファシリティマネジメントに関する資格認定事業（詳細 付2. 参照）

3. 1. 1 認定ファシリティマネジャー資格試験

平成30年7月8日(日)に全国8会場（東京、大阪、札幌、名古屋、福岡、仙台、金沢、高松 ※広島会場は災害により中止）で試験を実施し、可否発表を同年9月3日(月)に行った。また、平成31年度資格試験のための問題作成に着手した。

※ファシリティマネジャー資格認定事業：当協会、一般社団法人ニューオフィス推進協会及び公益社団法人ロングライフビル推進協会の3団体で実施している。

平成30年度 合格者数	412名(合格率:43.9%)	参考 937名(受験者数) 1,214名(受験申込者)
----------------	-----------------	--------------------------------

3. 1. 2 認定ファシリティマネジャー資格登録

資格試験合格者の内、一定の実務経験保持者で申請のあった者に対し、「認定ファシリティマネジャー資格者（CFMJ）」の称号を付与し登録した。

平成30年度 登録者数	365名(内、平成30年度合格の登録者284名) 累計6,679名(平成31年3月31日現在)
----------------	--

3. 1. 3 認定ファシリティマネジャー資格更新登録

資格更新が決定した者に対し、資格登録証を発行した。
また、平成31年度更新登録に関する準備に着手した。

平成30年度資格 更新登録者数	1,074名(平成31年3月31日現在)
--------------------	----------------------

3. 2 ファシリティマネジメントに関する教育研修事業（詳細 付3. 参照）

会員及び会員以外を対象として、ファシリティマネジメントに関する基礎から応用に関わる知識・技術・経験等を広く学習する機会を提供するため、以下のセミナー（研修）を行った。
全てのセミナーは会員に限定せず、誰でも受講可能とした。

3. 2. 1 初級FMスクール・セミナーの実施

より一層のFM普及を図るため、初級FMスクールを開催した。1日でFMの基本をマスターする集合講座を、平成30年8、10、12月に東京で計3回実施、計72名が受講した。

テキスト及び副読本として「第四の経営基盤－日本企業が見過ごしてきたファシリティマネジメント」等を使用した。

3. 2. 2 日本ファシリティマネジメント大会（ファシリティマネジメントフォーラム）でのセミナー

基調講演、特別講演、一般講演、JFMA賞受賞講演、調査研究部会講演、初級者向け講演、展示団体講演、パネルディスカッション等、合計92件のセミナーで構成した。

受付入場者数は3,020名、セミナー参加者総数は8,500名。

3. 2. 3 ウィークリーセミナー

ファシリティマネジメント各分野の専門家を講師とし、ファシリティマネジメント各分野に亘るテーマでセミナーをJFMA会議室にて15回開催した。

受講者総数は375名。（1回当たりの受講者平均は25名）

3. 2. 4 専門分野別特別セミナー

広範なファシリティマネジメント専門分野別に、特別セミナーを開催した。

(1) 調査研究部会 特別公開セミナー ～JFMA FM 秋の夜学校～

調査研究部会の研究成果をテーマ別公開セミナーとして平成30年9月～11月に9回特別セミナーを1回、計10回開催した。研究部会の発表は1部会45分とし、一度に2部会が発表。受講者総数は291名。

(2) FM－ISOセミナー

平成30年4月23日に発行されたFMのISO認証規格（ISO41001）の内容、活用方法、メリット等を解説するセミナーを計4回実施した。受講者総数は158名。

3. 2. 5 ファシリティマネジメント上級セミナー

ファシリティマネジメントの専門分野について、深く掘り下げるセミナーを開催した。企業、大学等で専門分野の最先端で活躍する方々を講師陣とし、平成30年11月に3日間開催した。受講者総数は42名。

3. 2. 6 公共向けFMセミナー

公共インフラの健全な維持管理のために、公共施設等総合管理計画を実行に移す際に参考となるよう、現場での実体験を踏まえた講演、パネルディスカッション、トークセッションといったシンポジウム形式で計4回実施した。受講者総数は84名。

3. 2. 7 FMサマースクール2018

FM・総務サービスを組織内で実践する際に必要な基本のエッセンス（基本ビジネス能力、ホスピタリティ能力、FM専門知識・技術）を集中して学ぶセミナーを、平成30年8月～9月の6日間で開催した。受講者総数は113名。

3. 3 ファシリティマネジメントに関する表彰事業 （詳細 付4.参照）

第13回日本ファシリティマネジメント大賞（JFMA賞）を実施した。

公募による22件を対象とし、審査委員11名による審議の結果、下記の授賞を決定し、ファシリティマネジメントフォーラム 2019」において授賞式を行った。

《最優秀FM賞（鵜澤賞）》 1件

株式会社横浜銀行：横浜銀行におけるファシリティマネジメントの実践について

《優秀FM賞》 2件

- ・三菱地所株式会社：三菱地所本社移転を通じたFM戦略の実現とまちへの展開
- ・日本アイ・ビー・エム株式会社：ビジネスの変化に迅速に対応する“AGILE OFFICE”

《特別賞》 3件

- ・青森県：組織的かつ継続的なFMによる県有施設の利活用の取組
- ・株式会社ガイアート：FM(AM)手法によりアセットを有効活用し、地域の活性化を目指す
- ・宮城県南三陸町：復興まちづくりにおける庁舎づくり ～まちの未来につながるFM

《功績賞》 1件

上森 貞行氏(盛岡市財政部資産経営課)：地方自治体の公共施設マネジメント
ー公共建築物に関する個別施設計画の策定方法に関する研究ー（博士論文）

《奨励賞》 7件

- ・総務省行政管理局：理想の働き方のために働く「場」を変える、オフィス改革の挑戦
- ・パナソニック株式会社：“A Better Workstyle”を目指す
パナソニックグループのオフィス改革
- ・ノアソリューションズ & ネットワークス合同会社：働き方改革を促進させるFM
～自律と協業がもたらす新たな企業風土～

- ・東京地下鉄株式会社：東京メトロ銀座線リニューアルにおけるFMの活用と実践
- ・川崎市：川崎駅東口周辺におけるリノベーションまちづくり
～遊休不動産等を活用した公民連携によるFMの取組～
- ・イケア・ジャパン株式会社：“メンテナンス”から“ファシリティマネジメント”へ
- ・日本マクドナルド株式会社：コミュニケーションと業務の質・スピードが向上できる
FUNのある場

3. 4 ファシリティマネジメントに関する調査研究事業（詳細 付5.参照）

ファシリティマネジメントに関する専門分野毎に設置する「調査研究部会」の活動、及びファシリティマネジメントのISO認証規格発行を受けた対応を行った。

3. 4. 1 調査研究部会

合計18の調査研究部会が各々のメインテーマのもとに活動を行った。

(1) マネジメント研究分野

- ① FM戦略企画研究部会（登録者数：16名）
都市・地域経営と公共FM戦略—今後の都市・地域の持続可能性に貢献する公共FM戦略—
- ② FMプロジェクトマネジメント研究部会（登録者数：44名）
働き方改革を実現する「場と仕組みづくり（FM）」のプロジェクトマネジメント手法を調査研究する。
また、働き方改革を意識していない構築プロセスとの違いを明らかにする。
- ③ リスクマネジメント研究部会（登録者数：17名）
レジリエンスに関する研究と事業継続に関する報告書の改訂
・「帰宅困難者施設受け入れ」に関する検討
・災害時の災害弱者対策の検討
- ④ エネルギー環境保全マネジメント研究部会（登録者数：22名）
平成29年度は資源、大気、水、エネルギーをテーマに持続可能な社会を支えるファシリティマネジメントについて検討した結果、内包する環境価値の重要性が明らかになった。
平成30年度はこれら環境価値に加えてSociety 5.0の概念を取り入れIoTやAI等の最先端技術を活用したエネルギー環境保全に関する調査研究を行う。
- ⑤ CREマネジメント研究部会（登録者数：26名）
中長期的な視点に立脚して企業活動を支えると共に、企業価値向上に貢献することを目的とした“企業不動産（CRE）マネジメント”に関する体系的な手法研究及び国内企業への普及・促進。
- ⑥ インフラマネジメント研究部会（登録者数：27名）
官民連携を基本とするインフラマネジメント手法の導入を目指し、地方自治体に対しヒアリング、FM的側面からのインフラマネジャー育成、及びISOの活用等について調査研究を行う。
併せて平成27年2月に発足以来、本年度で3年目を迎えることを鑑み、協会内のファシリティマネジャー育成の各種研修会運営に積極的に参加しFMとインフラマネジメントの融合を目指す。
- ⑦ 人と場へのFM投資価値研究部会（登録者数：26名）
「ワークプレイス」へのFM投資価値評価を、金銭的視点での定量評価のみならず、人間の「感性」や「心情」といった心理的視点、また「働き心地」「快適性」等の身体的視点での定性評価にも焦点を当て、FM投資意義とその投資効果等を経営者にとっても納得感のある「定性評価手法」を研究し、戦略経営FMの普及を目指す。
- ⑧ こころとからだのウェルビーイング研究部会（登録者数：13名）
「ウェルビーイングを実現するFM実践手法の確立」
働く人のウェルビーイングに関連するFMの知識や情報を幅広く収集し、それらをファシリティマネジャー向けの実践ノウハウとして体系化して発信を行う。

(2) 施設事例研究分野

① キャンパス FM 研究部会（登録者数：35 名）

大学は、近年、人口減少期問題、ガバナンス・マネジメントの再構築、教育の質向上の実現、生き残り等、戦略的な経営が求められている。

キャンパス FM はこれらのことを踏まえ、長寿命化、省エネ、安全確保、合理化・効率化等を実践していく必要がある。このため FM の視点から求められるキャンパスの姿を再度整理する。

また、この整理を踏まえてガイドブック（2008 年発行）の見直しを検討する。

② ヘルスケア FM 研究部会（登録者数：39 名）

健康・医療・福祉に関わる施設経営戦略を包括的に扱う HCFM の導入とその普及。

③ 公共施設 FM 研究部会（登録者数：142 名）

自治体における公共施設 FM の普及推進と今後の社会状況、変化に対する安心・安全な地域づくり、公共施設運営に向けた公共資産の最適な施設維持管理運営、品質向上に向けての公共 FM への取り組み、その調査、研究。

④ ユニバーサルデザイン研究部会（登録者数：15 名）

ワークプレイスのユニバーサルデザインの価値を明らかにし、道具立てをつくる。

(3) 固有技術研究分野

① 運営維持手法研究部会（登録者数：13 名）

「納得感のもてる最良の運営維持を目指して」

ユーザー視点に立ったファシリティ運営維持業務とその評価に関するあり方を探る。

② 品質評価手法研究部会（登録者数：19 名）

オフィスのトイレ品質評価

③ FM 財務評価手法研究部会（登録者数：26 名）

FM 財務評価の更なる普及を図る。（理解のし易さを追求し、広範な浸透を目指す。）

④ オフィス・ワークプレイスの知的生産性研究部会（登録者数：26 名）

ワークプレイスにおける重要なテーマである知的生産性に焦点を当て、それらの要素を明らかにし、経営と現場の双方に有効なマネジメントのためのツールを開発する。

⑤ コンピュータ活用研究部会（登録者数：33 名）

FM 領域で係わる ICT 新技術の調査

「保全システムの活用事例の調査」

「知的生産性の測定事例の調査」

「Eco・Lcc 削減を可能にする環境配慮型 ICT 新技術の調査」

「AI・BIM を利用した FM での活用事例調査」

⑥ BIM・FM 研究部会（登録者数：51 名）

・BIM・FM 連携ガイドライン作成

・BIM・FM 連携による BIM 及び FM の高度化

3. 4. 2 ファシリティマネジメントの ISO 認証規格発行後の対応

FM の ISO 認証規格発行後も継続している ISO/TC 267 ファシリティマネジメント国際全体会議の動向を把握、必要に応じ入手した情報を発信した。

3. 4. 3 海外ファシリティマネジメント視察調査団

海外のファシリティマネジメント事情を調査するため平成 30 年 9 月 22 日（土）～9 月 30 日（日）の間、30 名で構成する視察調査団を北欧に派遣した。

3. 5 ファシリティマネジメントに関する広報事業（詳細 付. 6 参照）

ファシリティマネジメントに関する広報を目的として、ホームページの運用、メールマガジン及び機関誌の定期的な発行、新聞雑誌等マスコミへの広告、ファシリティマネジメントフォーラムを活用した情報発信と展示会及び地方自治体等公共機関への広報を行った。

3. 5. 1 機関誌「JFMAジャーナル」の定期的な発行

機関誌「JFMAジャーナル」を更に充実し、新たな特集内容で刊行した。発刊は年4回の季刊とし（春夏秋冬、夫々4月、7月、10月、翌年1月）、会員に頒布した。

3. 5. 2 Web版「JFMAジャーナル・ONLINE」の運用

JFMAからの周知事項、会員情報等をタイムリーに知らせる必要があるため、インターネットを利用し、毎月Web上にタイムリーな情報を掲載する「JFMAジャーナル・ONLINE」の運用を行った。

3. 5. 3 ホームページの運用

わが国を代表するファシリティマネジメント関連組織として、随時必要な改定を行い、常に新しい情報の提供を行った。年度末時点で約130万回アクセスのあるウェブサイトとなった。

3. 5. 4 メールマガジンの定期的な発行

ファシリティマネジメントに関する最新情報を、一般向けメールマガジン「JFMAIL」として月平均2回を基本とし、約6,000人の登録者へ合計21回発信した。

公共機関関係向けのメールマガジン「公共FM推進ネット」は月平均1回、256団体の地方自治体等登録者約257人へ合計13回発信した。

3. 5. 5 マスメディア、その他広くネットワークを持つ方法の活用

FMの広報手段として、マスメディアの活用を行い、外部の各種展示会にブースを出展した。また、会員企業の社内誌等も積極的に協力を頂いた。

3. 5. 6 「ファシリティマネジメントフォーラム2019」のスポンサー募集とガイドブック発行

会員企業及び会員企業以外の企業48社より数種類（ダイヤモンド、ゴールド、シルバー）のスポンサーを募った。スポンサー広告を掲載するガイドブックを3,000部発行、配布した。

3. 6 ファシリティマネジメントに関する交流事業（詳細 付7. 参照）

今期は、主として下記の交流を行った。

(1) ファシリティマネジメントフォーラムにおける交流

JFMA賞受賞祝賀会、ネットワーキングパーティーをタワーホール船堀「瑞雲の間」にて開催、343名の参加を得て交流を図った。

(2) 海外のFM関連団体との交流

① EFMC2018（Euro FM国際大会）への参加

パネルディスカッションのモデレーターを務めたほか、「公式ガイド ファシリティマネジメント」の作成についてプレゼンテーションを実施した。

② KFMA第24回国際シンポジウムへの参加

日本におけるFMの取り組み、JFMA賞受賞事例、ISO41000シリーズの取り組みについてプレゼンテーションを実施した。

③GEFMA（ドイツFM協会）による講演
情報収集のため来日した関係者による講演会を開催した。

④ファシリティマネジメントフォーラム 2019ーグローバルFMサミット
香港、韓国、マレーシア、中国、タイからFM団体関係者が来日し、各国の最新FM
事情を発表し、意見交換を行った。

(3)その他

国内FM関連団体（北海道FM協会、四国FM協会他）、学会、大学、地方公共団体等と
セミナー等で交流した。

3. 7 第13回日本ファシリティマネジメント大会（ファシリティマネジメントフォーラム 2019）

平成31年2月20日(水)～2月22日(金)の3日間、タワーホール船堀にて第13回日本ファ
シリティマネジメント大会（ファシリティマネジメントフォーラム 2019）を開催した。

基調講演、特別講演、一般講演、JFMA賞受賞講演、JFMA委員会講演、調査研究部会
講演、初心者向け講演、シンポジウム、パネルディスカッション、グローバルFMサミット等、
合計92件のセミナーで構成し、このほかに、26団体が出展した展示会、JFMA賞授賞式、
ネットワーキングパーティなど多様なプログラムを実施した。

受付入場者数は3,020名、セミナー参加者総数は8,500名。

3. 8 その他、本協会の目的を達成するために必要な事業

次の書籍類を発刊した。

- ①JFMA機関誌「JFMA JOURNAL（ジャフマジャーナル）」(季刊計13,200部)
- ②FMの実践ノウハウを掲載「未来を拓く ファシリティマネジャーの皆様へ」(1,000部)
- ③最新4か年 認定ファシリティマネジャー資格 試験問題集 2019年度版(1,300部)
- ④ISO41001の解説と具体的例示「ユーズーズガイド」(300部)
- ⑤講演録とそれら事例からの示唆を纏めた「健康経営とワークプレイス」(500部)

4. 事業内容（その他事業：相互扶助事業）

会員相互の交流を図る事業として下記の交流を行った。

- ①法人会員代表者交流会を平成30年10月16日(火)にロイヤルパークホテルにて開催し
た。会員企業代表者・関係者が140余名来場し、法人会員同士の交流が行われた。
- ②新春賀詞交歓会を平成31年1月17日(木)にJPタワー・KITTEにて開催した。
前回と同様、来場者が多数となり個人会員も含めた多くの方々との交流の場を設けるこ
とを目的に外部施設での開催とした。関係省庁からの来賓、企業会員、個人会員等の関
係者、計200余名が参加した。

付 目 次

付 1．委員会	1 9
1．企画運営委員会	2 0
2．資格制度関連委員会	2 0
3．調査研究委員会	2 0
4．教育研修委員会	2 1
5．広報委員会	2 1
6．FM推進戦略委員会	2 1
7．JFMA賞審査委員会	2 1
8．ISO／TC 267 ファシリティマネジメント国内専門委員会	2 1
9．コンプライアンス委員会	2 1
付 2．資格認定事業	2 2
1．認定ファシリティマネジャー資格試験	2 3
2．認定ファシリティマネジャー資格登録	2 3
3．認定ファシリティマネジャー資格更新登録	2 3
4．総解説「ファシリティマネジメント」の改訂刊行に併せたセミナーの 実施	2 4
5．認定ファシリティマネジャー合格者・資格登録者等の現状	2 5
付 3．教育研修事業	2 7
1．初級FMスクールの実施	2 8
2．日本ファシリティマネジメント大会（ファシリティマネジメントフォーラム 2019） でのセミナー	2 8
3．ウィークリーセミナー	3 5
4．専門分野特別セミナー	3 6
5．ファシリティマネジメント上級セミナー	3 8
6．公共向けFMセミナー	3 9
7．JFMA FMサマースクール 2018	3 9
付 4．表彰事業	4 1
付 5．調査研究事業	4 6
1．調査研究部会活動	4 7
2．ファシリティマネジメント国際標準化（ISO）への対応	5 5
3．海外ファシリティマネジメント調査団	5 5
付 6．広報事業	5 6
1．ファシリティマネジメントに関する広報事業	5 7
2．機関誌「JFMAジャーナル」の定期的な発行	5 7
3．Web版「JFMAジャーナル・ONLINE」の運用	5 7
4．ホームページの運用	5 7
5．メールマガジンの定期的な発行	5 8
6．「ファシリティマネジメントフォーラム 2019」のスポンサー募集とガイドブック等発行	5 9
付 7．交流事業	6 0

付 1. 委員会

付 1. 委員会

各委員会を下記のとおり実施した。(開催日と主な議題を記す。)

1. 企画運営委員会

- (1) 第 159 回 平成 30 年 5 月 9 日(水)
前年度事業実績報告及び決算報告(理事会議案書)について
- (2) 第 160 回 平成 30 年 8 月 7 日(火)
ファシリティマネジメントフォーラム 2019 企画案について
- (3) 第 161 回 平成 30 年 10 月 5 日(金)
海外 FM 視察調査概報、J FMA 運営に関する意見交換
- (4) 第 162 回 平成 30 年 12 月 4 日(火)
FM-I SO 現況報告、次年度事業計画に関する意見交換
- (5) 第 163 回 平成 31 年 2 月 7 日(木)
次年度事業計画及び事業予算(理事会議案書)について

2. 資格制度関連委員会

A. 資格制度委員会

- (1) 第 1 回 平成 30 年 8 月 29 日(水)
平成 30 年度資格試験実施結果の確認、最終合格者案の決定について
- (2) 第 2 回 平成 30 年 12 月 20 日(木)
平成 30 年度更新講習・更新登録実施結果の確認と更新登録予定者について

B. 試験委員会

- (1) 第 3 回 平成 30 年 4 月 16 日(月)
資格試験問題案の審議等
- (2) 第 4 回 平成 30 年 4 月 19 日(木)
資格試験問題案の審議等
- (3) 第 5 回 平成 30 年 7 月 28 日(土)
資格試験の論述問題の回答採点、試験合格者案作成
- (4) 第 6 回 平成 30 年 12 月 14 日(金)
次年度資格試験問題の検討準備等

C. 更新講習委員会

- (1) 第 3 回 平成 30 年 4 月 16 日(月)
テキスト原稿の確認等
- (2) 第 4 回 平成 30 年 5 月 7 日(月)
テキスト原稿審議、C 方式問題作成の分担決定、D 方式講師の決定
- (3) 第 5 回 平成 30 年 6 月 18 日(月)
テキスト原稿確認、C 方式問題審議、D 方式時間割決定
- (4) 第 6 回 平成 30 年 7 月 23 日(月)
C 方式問題最終確認、D 方式の講義用 PPT の審議
- (5) 第 7 回 平成 30 年 8 月 20 日(月)
D 方式の講義用 PPT の審議等
- (6) 第 8 回 平成 30 年 12 月 10 日(月)
平成 30 年度資格更新者の承認、次年度更新講習計画案の確認

3. 調査研究委員会

- (1) 第 111 回 平成 30 年 4 月 26 日(木)
新研究部会の紹介、平成 30 年度活動方針の策定
- (2) 第 112 回 平成 30 年 7 月 26 日(木)
調査研究部会活動の展開、FM 秋の夜学校について
- (3) 第 113 回 平成 30 年 11 月 29 日(木)
調査研究部会活動の展開、ファシリティマネジメントフォーラム 2019 研究部会発表について
- (4) 第 114 回 平成 31 年 1 月 31 日(木)
調査研究部会活動の展開、ファシリティマネジメントフォーラム 2019 研究部会発表について

4. 教育研修委員会

- (1) 第1回 平成30年5月9日(月)
新刊本の内容、デザイン等について
- (2) 第2回 平成30年7月9日(月)
新刊本発刊、ファシリティマネジメントフォーラム2019について
- (3) 第3回 平成31年1月22日(火)
ファシリティマネジメントフォーラム2019について
- (4) 第4回 平成31年3月26日(火)
ファシリティマネジメントフォーラム2019、次年度活動計画について

5. 広報委員会

- (1) 第124回 平成30年6月11日(月)
JFMAジャーナル編集、ファシリティマネジメントフォーラム2018の開催報告
- (2) 第125回 平成30年9月11日(月)
JFMAジャーナル編集、FMの潮流と広報委員会の在り方について
- (3) 第126回 平成30年11月2日(月)
JFMAジャーナルの特集テーマについて
- (4) 第127回 平成31年1月24日(木)
JFMAジャーナル編集、年間スケジュールについて
- (5) 第128回 平成31年3月25日(月)
JFMAジャーナル編集、活動内容について

6. FM推進戦略委員会

- (1) 第39回 平成30年4月4日(水)
「働き方改革とオフィスマーケット」の説明、FM関連ビジョンの討論
- (2) 第40回 平成30年6月13日(水)
「国土交通省 健康性、快適性等に関する不動産に係る認証制度」の説明
当委員会からの提言(案)の説明、討論
- (3) 第41回 平成30年8月1日(水)
「BLC最近の活動ーオブジェクト標準化、ライブラリー・情報プラットフォーム構築に向けて」の説明
当委員会からの提言(案)の説明、討論
- (4) 第42回 平成30年10月3日(水)
新社屋見学会(日本郵政株式会社)
- (5) 第43回 平成30年12月5日(水)
「日経SDGsフォーラム」の報告とFMとの関わりの説明
当委員会からの提言(案)の説明、討論
- (6) 第44回 平成31年2月6日(水)
「FMデータを活用したデータ分析からビックデータ解析まで」の説明
当委員会からの提言(案)の説明、討論

7. JFMA賞審査委員会

- (1) 第1回 平成30年10月17日(水)
表彰規程概要確認、応募案件について意見交換、
現地調査実施候補の選定、今後の進め方について
- (2) 第2回 平成30年12月4日(木)
各賞推薦対象案件説明、各賞案件決定、今後のスケジュールについて

8. ISO/TC267 ファシリティマネジメント国内専門委員会

FM-ISO認証規格発行後の動向把握、共有は電子媒体を利用した。

9. コンプライアンス委員会

第15回 平成31年3月25日(月) 労働環境の改善、働き方改革について

付 2. 資格認定事業

付 2. 資格認定事業

ファシリティマネジメントの専門家として「ファシリティマネジャー資格者」を一般社団法人ニューオフィス推進協会及び公益社団法人ロングライフビル推進協会と連携して認定する。このため、認定ファシリティマネジャー資格試験、資格登録、資格更新を制度化している。

資格試験を平成 9 年度から毎年 1 回実施、平成 30 年度まで累計 13,631 名の合格者を輩出し、今期末時点の資格登録者数は 6,751 名である。

受験資格は定めず誰でも受験可能であるが、資格登録には一定の実務経験を要することとしている。資格有効期間を 5 年とし、資格更新のために必要な講習会を毎年 3 回実施している。

認定ファシリティマネジャー資格者は、わが国及び海外の企業団体等にあつてファシリティマネジメントの実務を担っている。

1. 認定ファシリティマネジャー資格試験

次のとおり実施した。

(1) 試験日	平成 30 年 7 月 8 日(日)
(2) 試験会場	東京： 立教大学 池袋キャンパス 8 号館、11 号館 大阪： マイドームおおさか 札幌： 札幌商工会議所（北海道経済センター内） 名古屋： 名古屋商工会議所 福岡： 福岡商工会議所 仙台： 国際マルチビジネス専門学校 広島： R C C 文化センター（※豪雨災害により中止） 金沢： 石川県教育会館 高松： 高松商工会議所
(3) 試験内容	学科試験及び論述試験
(4) 受験申込期間	平成 30 年 4 月 2 日(月)～同年 5 月 11 日(金)
(5) 合否発表	平成 30 年 9 月 3 日(月)
(6) 申込者数	1,214 名
(7) 受験者数	937 名
(8) 合格者数（合格率）	412 名（43.9%）

2. 認定ファシリティマネジャー資格登録

認定ファシリティマネジャー資格試験の合格者のうち、一定の実務経験保持者で申請のあった者に対し、「認定ファシリティマネジャー資格者(CFMJ)」の称号を付与し登録する。

登録申請は試験合格の後いつでも行うことが出来るが、合格後 5 年を経過した場合には更新講習を受講することを要する。今年度登録者数は 365 名。内、今年度合格した者は 284 名。

3. 認定ファシリティマネジャー資格更新登録

認定ファシリティマネジャー資格有効期間が 5 年であることから、資格有効期間が満了する者を対象として、次の 4 方式による資格更新を行う。

なお、すでに資格有効期間が過ぎ更新していない者が改めて資格登録を希望する場合、及び試験合格後 5 年を経過した者が初めて資格登録を行う場合には「C 方式（在宅講座）」または、「D 方式（集合講座）」を受講することにより資格登録を行うことが出来る。

- (1) 資格更新登録方式
- A：個人会員
 - B：FM活動ポイント
 - C：在宅講座
 - D：集合講座

(2) 申込受付期間

平成 30 年 8 月 1 日(水)～同年 9 月 20 日(木)

(3) D 方式（集合講座）の開催日程と開催地

平成 30 年 10 月 10 日(水) 東京(1 回目) 科学技術館

平成 30 年 10 月 12 日(金) 東京(2 回目) 科学技術館

平成 30 年 10 月 26 日(金) 大阪 大阪商工会議所

(4) 更新登録者数

1,074 名

(資格更新登録方式別内訳)

A : 125 名

B : 54 名

C : 287 名

D : 608 名

4. 総解説「ファシリティマネジメント」の改訂刊行に併せたセミナーの実施

わが国ファシリティマネジメントの標準的テキストであり、認定ファシリティマネジャー資格試験の出題ソースとして使われている「総解説ファシリティマネジメント」(2003 年刊)及び「総解説ファシリティマネジメント追補版」(2009 年刊)の見直しを行い、「公式ガイドファシリティマネジメント」として平成 30 年 1 月に刊行した。

この刊行に併せその内容とポイントをセミナー形式で解説する機会を設けた。(平成 29 年度から継続)

今期の開催は以下のとおり。参加者総数は 516 名。

平成 30 年 4 月 13 日(火) 東京 一橋大学 一橋講堂

平成 30 年 4 月 19 日(木) 名古屋 名古屋商工会議所

平成 30 年 4 月 27 日(金) 金沢 石川県教育会館

平成 30 年 5 月 10 日(木) 仙台 フォレスト仙台

平成 30 年 5 月 22 日(火) 札幌 札幌商工会議所(北海道経済センター内)

５．認定ファシリティマネジャー合格者・資格登録者等の現状

(1) 認定ファシリティマネジャー 合格者／登録者の内訳

年度	資格試験				合格者							資格登録者※1			相互認証 資格登録者※2		
	CFMJ(日本)				CFMJ(日本)							CFMJ(日本)			CFM(米国)		
	受験 申込者 (人)	受験者 A (人)	合格者 B (人)	B / A 合格 率 (%)	平均 年齢 (歳)	最 高 年 齢 (歳)	最 低 年 齢 (歳)	男 性 (人)	男 性 比 率 (%)	女 性 (人)	女 性 比 率 (%)	新 規 登 録 者 (人)	※3 更 新 登 録 者 (人)	有 効 登 録 者 (人)	新 規 登 録 者 (人)	更 新 登 録 者 (人)	有 効 登 録 者 (人)
1997年 (平成9年度)	2,316	2,132	981	46	40	70	25	941	95.9	40	4.1	1660※4	—	1,660	—	—	—
1998年 (平成10年度)	2,001	1,809	753	41.6	39.3	64	25	720	95.6	33	4.4	862※4	—	2,522	—	—	—
1999年 (平成11年度)	1,688	1,489	640	43	39	65	25	605	94.5	35	5.5	772※4	—	3,294	—	—	—
2000年 (平成12年度)	2,022	1,783	895	50.2	39.5	61	25	864	96.5	31	3.5	895	—	4,189	—	—	—
2001年 (平成13年度)	2,463	2,172	861	39.6	39.1	64	22	815	94.7	46	5.3	634	—	4,823	972	—	972
2002年 (平成14年度)	2,517	2,145	927	43.2	39.2	63	20	882	95.1	45	4.9	694	959	5,517	160	—	1132
2003年 (平成15年度)	2,399	2,052	824	40.2	37.7	66	22	761	92.4	63	7.6	635	743	5,437	31	155	897
2004年 (平成16年度)	1,932	1,653	684	41.4	39.5	61	20	633	92.5	51	7.5	527	575	5,858	51	113	941
2005年 (平成17年度)	2,017	1,677	683	40.7	37.7	62	20	621	90.9	62	9.1	550	514	6,212	45	54	886
2006年 (平成18年度)	1,651	1,349	555	41.1	37	68	22	494	89	61	11	448	527	6,279	35	31	835
2007年 (平成19年度)	1,701	1,395	540	38.7	37.9	61	20	491	90.9	49	9.1	433	1,165	6,514	9	22	667
2008年 (平成20年度)	1,748	1,436	635	44.2	36.1	65	19	568	89.4	67	10.6	466	892	6,540	12	26	384
2009年 (平成21年度)	1,488	1,272	510	40.6	41.6	66	20	456	89.4	54	10.6	413	783	6,468	13	7	293
2010年 (平成22年度)	1,324	1,137	490	43.1	39.5	65	21	432	88.2	58	11.8	376	748	6,363	9	4	162
2011年 (平成23年度)	1,217	1,071	471	43.8	38.7	62	21	419	89	52	11	380	683	6,406	61	3	161
2012年 (平成24年度)	1,174	1,025	450	43.9	39.1	67	21	406	90.2	44	9.8	389	1,176	6,521	191	82	382
2013年 (平成25年度)	1,196	1,034	450	43.5	38.8	65	24	394	87.6	56	12.4	391	986	6,453	—	—	333
2014年 (平成26年度)	1,224	1,075	472	43.9	39	62	21	413	87.5	59	12.5	398	878	6,447	—	—	333
2015年 (平成27年度)	1,283	1,074	473	44	40.3	67	22	417	88.2	56	11.8	426	823	6,565	—	—	302
2016年 (平成28年度)	1,315	1,070	470	43.9	41.1	69	21	407	86.6	63	13.4	387	807	6,645	—	—	261
2017年 (平成29年度)	1,300	1,036	455	43.9	39.4	68	22	380	83.5	75	16.5	374	1,117	6,751	—	—	170
2018年 (平成30年度)	1,214	937	412	44	40.6	69	23	335	81.3	77	18.7	365	1,074	6,679	—	—	0
1997～ 2018年度 累計	37,190	31,823	13,631	—	—	—	—	12,454	—	1,177	—	—	—	—	—	—	—

★各年度の資格登録者数は3月31日時点のものです。但し、最新年度は上記の日付に従います。

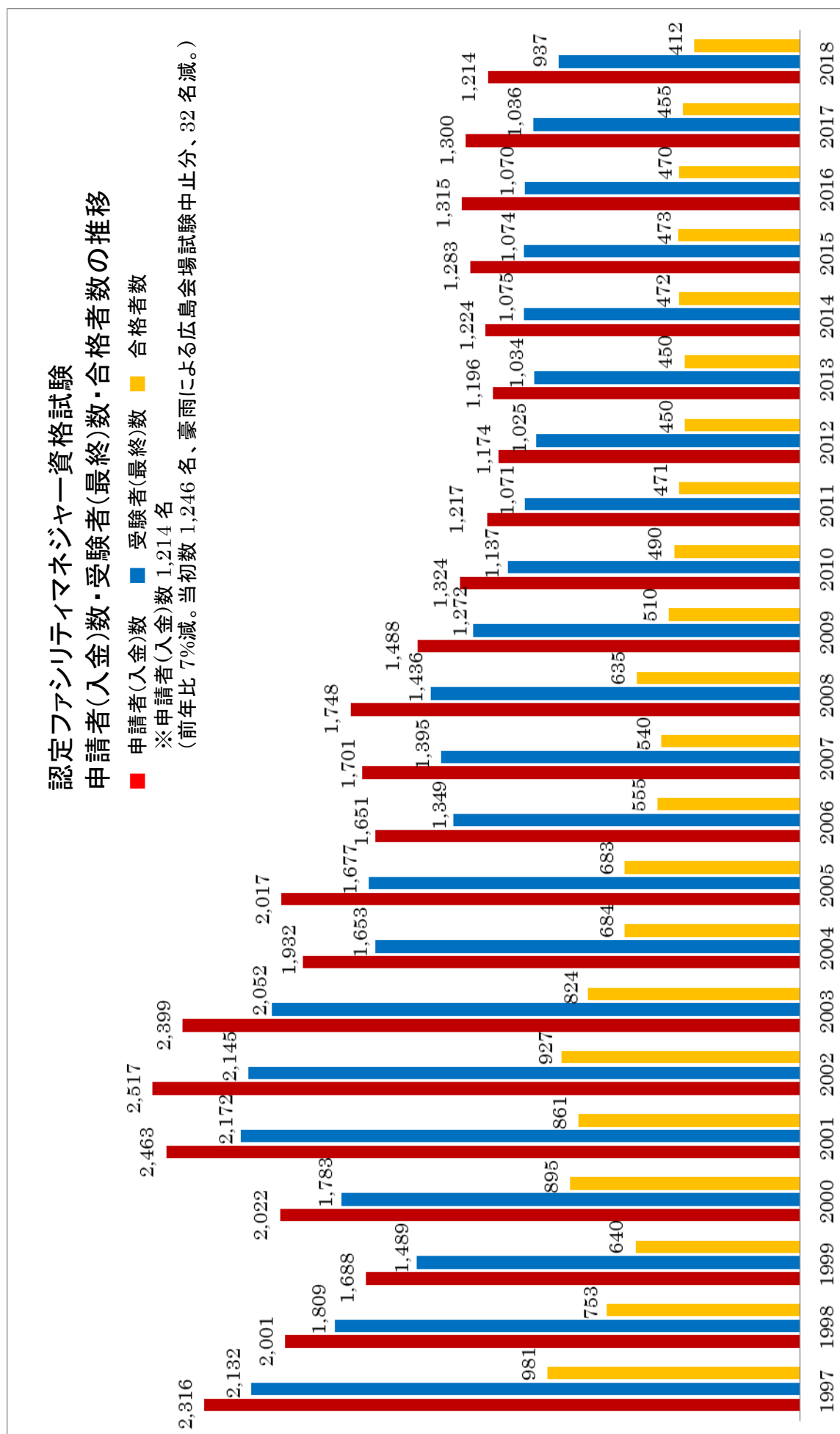
CFMJ (Certified Facility Manager of Japan)

--日本のFM資格制度協議会が認定するファシリティマネジャー資格

CFM (Certified Facility Manager)

--米国の国際ファシリティマネジメント協会 (IFMA: International Facility Management Association) が認定するファシリティマネジャー資格

- 登録者とは、資格の新規登録申請を行い、認定ファシリティマネジャー (CFMJ) となった方です
- 相互認証CFM資格登録者とは、CFMJ資格登録後、相互認証制度により、CFM資格登録を行った方(2013年6月1日より『CFM』に名称変更)です。
2012年12月31日に相互認証制度は終了し、有効期限が2018年3月31日のCFM資格者170名が最終登録者となりました。
- 資格更新登録者には、登録有効期間(合格または更新後5年)の満了にともない継続して登録した方、登録有効期間を過ぎて失効し再登録した方、資格試験合格後5年以内に初回登録をせず更新講習を受講した後新規登録をした方、が含まれます。
- 新規登録には、登録有効期間内(合格後5年以内)に初回登録をした方、前年に更新講習を受講後初回登録をした方が含まれます。
- 1997年度・1998年度・1999年度の新規資格登録者には、それぞれ、特別講習修了者、679人・109人・132人がそれぞれ含まれます。但し、特別講習は、1997年度から3か年の特別措置として実施され、現在は終了しています。
- 2018年度資格試験「広島会場」は大豪雨の影響で中止としました。



付 3. 教育研修事業

付 3 教育研修事業

1. 初級FMスクールの実施

ファシリティマネジメントの初心者を対象としたセミナーを、初心者用テキスト及び副読本には「第四の経営基盤」等を用いて計3回開催し、合計72名が受講した。

テーマ	FMの基本を学ぶ。
開催日時	【第1回】平成30年8月3日(金) 10時00分～17時30分 【第2回】平成30年10月19日(金) 10時00分～17時30分 【第3回】平成30年12月7日(金) 10時00分～17時30分
場 所	東京：JFMA事務所 会議室
講 師	松岡 利昌（株式会社松岡総合研究所 代表取締役） 齋藤 敦子（コクヨ株式会社 ワークスタイル研究所 主幹研究員） 重綱 鉄哉（株式会社イトーキ 企画本部長室 主管研究員） 成田 一郎（JFMA専務理事）
受講料	会員 10,000 円 非会員 15,000 円
受講者	【第1回】22名 【第2回】26名 【第3回】24名

2. 日本ファシリティマネジメント大会（ファシリティマネジメントフォーラム2019）でのセミナー

- (1) テーマ For the Future! FMの未来 新たな価値を求めて
ー時代が変わる。人・組織・社会を支えるファシリティマネジメントー
- (2) 日 程 平成31年2月20日(水)～22日(金)
- (3) 会 場 タワーホール船堀（江戸川区船堀 4-1-1 都営新宿線船堀駅前）
- (4) 来場者数 受付入場者数 3,020 名 セミナー参加者総数 8,500 名
- (5) プログラム構成
次のとおり、セミナー合計92件で構成。
- ① 基調講演 … 2 件
 - ② 特別講演 … 8 件
 - ③ 提言講演 … 1 件
 - ④ JFMA賞受賞講演 ※注) … 7 件
 - ⑤ 公募講演 … 34 件
 - ⑥ 初級FM講座 … 1 件
 - ⑦ 研究部会等発表 … 15 件
 - ⑧ シンポジウム … 6 件
 - ⑨ グローバルFMサミット … 1 件
 - ⑩ 企業・団体PRプレゼンテーション … 17 件
- (6) 展示会 出展企業団体 … 26 者

※注) 平成30年度JFMA賞
優秀ファシリティマネジメント賞受賞者による受賞内容に関する講演

2/20日(水) セミナー・イベントスケジュール

00: 概要紹介ページ

会場 時間	5F 大ホール
13:30 ↓ 13:40	主催者挨拶 山田 匡通 JFMA会長 02
13:40 ↓ 14:10 (30分)	JFMA 委員会からの提言 JFMAの未来戦略 ―企業の持続的成長を支えるFM戦略の提言2019― 板谷 敏正 JFMA FM推進戦略委員長 10
14:10 ↓ 15:00 (50分)	基調講演 高橋 正巳 WeWork Japan 合同会社 ゼネラルマネージャー 企業と人が成長できるワークスペースとは ―WeWorkのグローバルネットワークの考え方― 11
(10分)	休 憩
15:10 ↓ 16:30 (80分)	特別講演 人生100年時代のまちづくり ―街全体で高齢者・障害者・子供達を看守る「IWAOモデル」― 岩尾 聡士 京都大学経営管理大学院 特定教授 11
(10分)	休 憩
16:40 ↓ 17:40 (60分)	特別講演 海外FM最前線 松岡 利昌 松岡総合研究所 代表取締役 12
(10分)	休 憩
17:50 ↓ 18:50 (60分)	初級FM講座 FMビギナーのための実例から学ぶFM 成田 一郎 JFMA専務理事 12



山田 匡通
JFMA会長

基調講演



高橋 正巳
WeWork Japan 合同会社
ゼネラルマネージャー

特別講演



岩尾 聡士
京都大学
経営管理大学院
特定教授



松岡 利昌
株式会社
松岡総合研究所
代表取締役

2/21 日(木) セミナー・イベントスケジュール

9:30~ 9:50	オープニングセレモニー 1F 展示ホール			
会場 時間	5F 大ホール			
10:20 ↓ 11:50 (90分)	基調講演 竹内 弘高 ハーバード大学 経営大学院 教授 一橋大学 名誉教授		「知識創造理論と 企業戦略」 13	
(50分)	昼休み	コミュニケーション ビュッフェ	コミュニケーションビュッフェ 11:30~12:40 70分 500円/人(先着 200名)	
会場 時間 区分	5F 小ホール 働き方改革・公共	2F 蓬 菜 企業プレゼン	2F 瑞 雲 病院・学校・公共FM	2F 平 安 BIM・JFMA賞その後
12:40 ↓ 13:20 (40分)	特別講演 “働き方改革”その先へ —シスコの働きがいのある会社づくり— 鎌田 道子 13 シスコシステムズ執行役員	企業プレゼン 会場準備	病院FMシンポジウム 病院のデジタル改革の実践 —病院 FMと サービスマネジメントとの融合— 小山 勇 埼玉医科大学国際医療センター 宇賀神 満 NTT東日本関東病院 加藤 哲夫 アイネット・システムズ 岩澤 由子 日本看護協会 モデレータ： 和 泉 隆 帝京大学 16	BIM FMシンポジウム FMの未来—BIM-FM Future はじめに 柴田 英昭 FMシステム ●第1部 BIM-FM PLATFORMと 今後について 光田 祐介 スターツコーポレーション ●第2部 コミッションングとBIM-FM 一ノ瀬 雅之 首都大学東京 18
(10分)	働き方改革シンポジウム 人と経営のための ファシリティマネジメント 鎌田 道子 シスコシステムズ JFMA健康経営タスクフォース 齋藤 敦子 JFMA広報委員長 高原 良 こころとからだのウェルビーイング コーディネータ 研究部会 部会長 似内 志朗 JFMA調査研究委員長 14		高砂熱学工業 / 寺岡慎介 環境配慮契約時代に対応する エコチューニングおよび エコチューニングツールのご紹介 46	
13:30 ↓ 13:50 ↓ 13:50 ↓ 14:10				
(25分)	休 憩(25分)			
14:35 ↓ 14:55 ↓ 14:55 ↓ 15:15	特別講演 公的ストックの適正化について —公共インフラ老朽化への対応— 福西 謙 14 内閣府政策統括官(経済社会システム担当)付 参事官(社会基盤担当)	JR 東日本ビルテック / 佐藤史祥 新規施設のエネルギー管理による 付加価値向上 46 ウフル / 坂本満春 IoT テクノロジーを活用した 設備管理・警備・清掃業務の変革 47	学校法人における FM財務評価 —企業会計とは 異なる基準での仮説— 一箭 憲作 コクヨマーケティング 16	JFMA賞その後 「いつも何がこどもにとって一番よ いことか」を全職員が考え、実践す る職場のFM実践 木 野 稔 19 真美会 中野こども病院
(10分)	休 憩(10分)			
15:25 ↓ 15:45 ↓ 15:45 ↓ 16:05	JFMA賞授賞式 準備 第13回 日本ファシリティ マネジメント大賞 JFMA賞授賞式 15:50 受付 16:10 開会	イオンディライト / 四方基之 グローバルレベルのサービスで アジアNo.1のFM企業へ 47 コアネット・ジャパン/大杉理恵 高山裕之 松里裕子 コアネット・グローバル 「Master of Corporate Real Estate: 国際資格がもっと身近に!」 47 休 憩(25分) NTT ファシリティーズ中央 / 渡邊 剛 IoT × AI 時代の ビル管理とサイバーセキュリティ 47 FMシステム / 柴田英昭 BIM × FM 連携による施設情報 マネジメント 48	公共FMシンポジウム 公共インフラ健全な維持管理 丸山 久一 長岡技術科学大学 宮里 心一 金沢工業大学 今 井 努 山口県周南市 建築分野における 実践と実証について 小宮 智典 東京都国立市 ゲストパネリスト： 浅野 和香奈 日本大学工学部 コーディネータ： 中 川 均 インフラマネジメント 研究部会 部会長 司会： 高橋 康夫 公共施設FM 研究部会 部会長 17 休 憩(10分)	JFMA賞その後 2010年JFMA賞受賞 倉敷中央病院 その後 藤本 義秋 19 大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院 休 憩(25分) 働く人を中心とした 働き方改革と場づくりに 関する一考察 遠 藤 一 19 オカムラ
(25分)				
16:30 ↓ 16:50 ↓ 16:50 ↓ 17:10				
(10分)				
17:20 ↓ 17:40 ↓ 17:40 ↓ 18:00		鹿島建設 / 田中重良 FMのための行動可視化 48 日比谷総合設備 / 佐藤 純一 パノラマ画像を利用した 現場取扱説明書「VTM」 48	ネットワーキング パーティ 会場準備	
			休 憩(30分)	
18:30 ↓ 20:00	ネットワーキングパーティ JFMA賞受賞祝賀会 「これがFMだ!」写真コンテスト 名刺投票 / 結果発表 受付開始 18:00~ 参加費：5,000円(会員・非会員共)			

昼休み

2F 福 寿

FMグローバル

グローバルFMシンポジウム
企業力向上のための
経営マネジメント
ー国際標準ISOの活用ー

基調講演:
黒田 浩司 経済産業省

長澤 泰 FM ISO委員会
四方 基之 イオンディライト
中川 均 ガイアート
ゲストパネリスト:
竹本 晋 三菱地所
コーディネーター:
松岡 利昌 JFMA理事 20

2F 桃 源

公共・リスク・組織

公共施設の
データベース化のポイント
加藤 泰正 日本設計
小坂 幹 日本設計
伊藤 一義 日本設計 23

市民協働型
「橋のセルフメンテナンス
ふくしまモデル」の紹介
浅野 和香奈
日本大学工学部 23

4F 研修室

調査研究部会

【運営維持手法研究部会】
運営維持の視点で「きっかりづくり」
ーベンチマークを活用したエネルギー消費原単位の推測ー
吉瀬 茂 工学院大学
佐藤 幸夫 グローブシップ
彦田 淳一 グローブシップ 25

【CREマネジメント研究部会】
CREマネジメント推進に
向けたアウトソーシングの
戦略的活用
大野 晃敬 東京オペラシティビル
百 嶋 徹 ニッセイ基礎研究所 25

休 憩(10分)

WELL認証アップデート
ー健康から施設評価する
制度の最新動向ー

今井 康博
グリーンビルディングジャパン 21

今見直すべき施設の
災害リスク
ー2018年の自然災害を
振り返ってー

杉内 章浩
竹中工務店 23

【コンピュータ活用研究部会】
BIMFM・CAFM・POEの
最新事例発表

飯島 勇 福井コンピュータアーキテクト
前澤 孝之 住友セメントシステム開発
森本 卓雄 アルファアソシエイツ 25

北欧3国FM調査報告
ウェルビーイング先進国に学ぶ
これからの働き方とワークプレイス

JFMA北欧視察調査団2018団長
齋藤 敦子 JFMA広報委員長 21

ファシリティマネジャーが
知りたい事業継続
ー災害から経営資源を
どのように守り、事業を続けるかー

堀 格 日本電気 24

【BIM・FM研究部会】
「ファシリティマネジメントのための
BIM活用ガイドライン」
について

猪里 孝司 大成建設 26

アジアFMサミット
アジアFM最新情報の紹介

IFMA(香港)
韓国
中国
タイ
マレーシア

コーディネーター:
松岡 利昌 JFMA理事
アシスタントコーディネーター:
三島 佳名恵 大成建設
川村 正夫 JFMA 22

富士フィルムが取り組む
防災活動

小林 雅樹
富士フィルムビジネスエキスパート 24

【ヘルスケアFM研究部会】
病院FMの
未来を考えよう!

平沼 昌弘 埼玉石心会病院 26

組織の創造活動における、
ワーカーのキャラクター・
働き方分析について

田中 勇一 イトーキ 24

【FM戦略・企画研究部会】
都市/地域の持続可能性と
FM戦略
ー観光開発によるまちづくりー

高藤 真澄
NTTファシリティーズFMアシスト 他 26

「これがFMだ!」写真コンテスト

名刺投票: 「ファシリティマネジメントフォーラム2019」展示ホール内投票コーナーにて 2月21日(木)9:50~18:00まで
ネットワーキングパーティ会場にて 18:00~19:00まで

結果発表: ネットワーキングパーティにて発表

展 示 会

1F 展示
ホール

9:50
18:30

基調講演



竹内 弘高
ハーバード大学
経営大学院教授
一橋大学名誉教授

特別講演

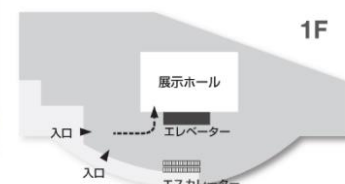
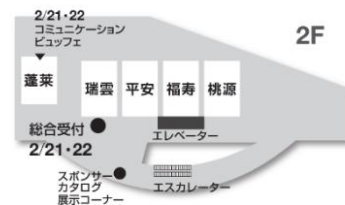
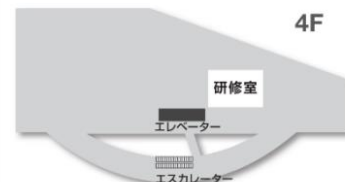
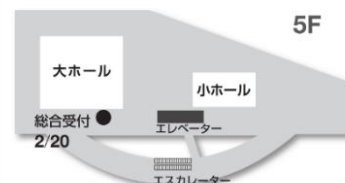


鎌田 道子
シスコシステムズ合同会社執行役員
マーケティング本部長
兼 SMB・デジタル事業開発
担当



福西 謙
内閣府 政策統括官
(経済社会システム担当)付
参事官(社会基盤担当)

フロア案内



2/22日(金) セミナー・イベントスケジュール

会場	5F 小ホール	2F 蓬 萊	2F 瑞 雲	2F 平 安
時間 区分	防災・エネルギー・未来	企業プレゼン	JFMA賞受賞講演	環境・防災・運営
10:20 11:00 (40分)	特別講演 巨大地震の メカニズムと将来予測 ー歴史学と地震学の マリアージュー 佐竹 健治 東京大学 地震火山史料連携研究機構長 地震研究所 教授	コミュニケーションビュッフェ 会場準備	【最優秀FM賞】 (鶴澤寛) 横浜銀行における ファシリティマネジメントの 実践について 横浜銀行	オフィスの立地・ オフィスビルを選ぶ際の 新たな観点 平出 英仁 ディー・サイン プレイスマネジメント研究所
(10分)				
11:10 11:50 (40分)		コミュニケーション ビュッフェ	【優秀FM賞】 三菱地所本社移転を通じた FM戦略の実現とまちへの展開 三菱地所	LCM支援システムを 活用した計画保全の実務 川 口 誠 M LCMコンサルティング
11:50 12:40	昼休み	2F 蓬萊 11:30~12:40 500円/人 (先着200名)		
12:40 13:20 (40分)	特別講演 日本文明と 防災とエネルギー ー水力発電の底力ー 竹村 公太郎 日本水フォーラム 代表理事	企業プレゼン 会場準備	【優秀FM賞】 ビジネスの変化に 迅速に対応する “AGILE OFFICE” 日本アイ・ビー・エム	ICT技術の進歩と 維持管理データがFMの 新しい価値を創造する! 柳 良 和 住友セメントシステム開発
(10分)				
13:30 13:50		エフエム・スタッフ / 青木 昭夫 当社が進める 働き方を変える FM	【特別賞】 組織的かつ継続的な FMによる県有施設の 利活用の取組 青森県	地域の防災力を 向上させたい 平 岡 守 かわべ防災の会、 Team7043(全国アマチュア無線 非常通信ボランティア団体)
13:50 14:10				
(25分)				休 憩(25分)
14:35 14:55	特別講演 生産性と幸福を高める 『AI』を軸にした人事改革 福原 正大 Institution for a Global Society 代表取締役社長	大成建設 / 高野 康幸 ワークプレイスからみた 施設の「未来」Wellness+	【特別賞】 FM(AM)手法により アセットを有効活用し、 地域の活性化を目指す ガイアート	防災に生かす地震情報 ー知っていますか? 長周期地震動階級ー 久保 剛太 気象庁
14:55 15:15		Offis/ 田野 宏一 働き方改革を推進する オフィスの在り方と福利厚生		
(10分)				
15:25 15:45	慶應義塾大学経済学部特任教授 一橋大学ビジネススクール特任教授	三菱地所 / 竹本 晋 隣の人を知らない会社は 未来が無い!?	【特別賞】 復興まちづくりにおける 庁舎づくり ーまちの未来につながるFMー 宮城県南三陸町	「地球温暖化対策計画」の 現状と代替フロン対策 作井 正人 日本冷媒・環境保全機構
15:45 16:05		構造計画研究所 / 池田 修一 管理の効率化! 新たな入退室管理リモートロック		
(25分)				休 憩(25分)
16:30 16:50	ロボットFMシンポジウム 業務用清掃ロボット 特別シンポジウム	ザイマックスインフォニスタ / 清水 絵梨花 働き方改革を支える オフィスのあり方とは	【功績賞】 地方自治体の公共施設マネジメント ー公共建築物に関する個別施設計画の 策定方法に関する研究ー(博士論文) 上森 真行 盛岡市資産経営課	アスベスト対策の 重要性と最新の 社会情勢 宮崎 恒一 エコ24
16:50 17:10	ファシリテーター: 田中 幸仁 日本ビルメンロボット協議会 パネリスト: 杉 田 洋 広島工業大学	住友セメントシステム開発 / 前澤孝之 施設維持管理データがもたらす、 経営の見える化		
(10分)				休 憩(10分)
17:20 17:40	渋谷 一太郎 三菱地所 鈴木 悟・田中 義康 グローブシップ	プロバティデータバンク / 幅上 公介 @ プロバティを活用した ファシリティマネジメント	ユーザー懇談会 「ファシリティマネジャーの皆さまへ」 金 英 範 日産自動車 川 村 裕 ジョーンズラングラサール 志牟田 章 エーザイ	花の建築から 「未来を育てる保全・ イノベーション」へ 安藤 秀徳 東京美装興業
17:40 18:00	小塩 隆之・本田 正文 イオンデイライト			

2F 福 寿	2F 桃 源	4F 研修室
働き方・ICT	FM戦略・基本・ロボット	調査研究部会
デジタル・ディスラプションの 未来を生き抜く!	温故知新...30年続いた FMパワー「施設白書」の 意義と再発見 井上 英夫 いのうえFMコンサルティング 40	【オフィス・ワークプレイスの 知的生産性研究部会】 人と組織の知的生産性を支える SOFモデル実用に向けて 齋藤 敦子 コクヨ 43
川原 秀仁 山下PMC 37		
休 憩(10分)		
日本の働き方改革と ワークプレイスの方向性 ー日本型モデルを考えるー 石崎 真弓 ザイマックス不動産総合研究所 37	総務・FM白書を作ろう クレイグ・カックス エフエムパートナーズ・ジャパン 40	【キャンパスFM研究部会】 大学淘汰時代を乗り切る キャンパスFM ーガイドブックの見直しー 藤村 達雄 東京音楽大学 43
昼休み(50分)		
働く意義を問う...近未来、 幸福な働き方の 実現を目指して! 本田 広昭 近未来オフィス&オフィスビル研究会 37	FM戦略のツボ ーDo and Not Doー 会社への「影響力」を出すには 金 英 範 日産自動車 40	【品質評価手法研究部会】 オフィスのトイレを語ろう 野瀬 かおり ファシリティマネジメント総合研究所 43
休 憩(10分)		
FM企業はいかに 「人手不足」に 対応していくか 山里 信夫 イオンディライト 38	ウェルネスオフィスによる エンゲージメント戦略 ー未来のワークスタイルへの キーポイントー 丸山 玄 大成建設 41	【人と場へのFM投資価値研究部会】 オフィス投資がもたらす 「場」の価値創造効率・ 効果の評価測定の試み 岡田 大士郎 三幸エステート 44
休 憩(10分)		
創造性の高い 個人や企業の 「働き方と組織の仕組み」 関川 博之 イトーキ 38	ロボット・IoTを活用した 施設・設備等の総合管理 水谷 紀彦 ALSOK 総合警備保障 41	【FM財務評価手法研究部会】 FM財務ハンドブックの 改訂について 大山 信一 三井住友建設 44
休 憩(10分)		
ワークとライフのあり方 から考える働き方改革 「Work in Life Labo.」2 森田 舞・谷口 美虎人 オカムラ 38	Arcを用いた 既存ビルのモニタリングと 環境認証について 平松 宏城 グリーンビルディングジャパン 41	【エネルギー環境保全 マネジメント研究部会】 連携・シェア・多様化で 実現する環境社会 横山 健児 NTTファシリティーズ 44
休 憩(10分)		
FMにおける ICT活用の最新動向 原 靖 大成建設 39	特別講演 サステナビリティ時代の 到来とファシリティニーズの 創造 ー企業価値を高める ファシリティ戦略ー 長谷川 直哉 法政大学 人間環境学部 大学院公共政策研究科 サステイナビリティ学専攻 教授 42	【FMプロジェクトマネジメント研究部会】 「新たな価値創造」に向けた FMプロジェクトマネジメントの世界 吉 井 隆 西日本電信電話 45
休 憩(10分)		
オフィス移転しなくても できること 八塚 裕太郎 ヒトカラメディア 39		【リスクマネジメント研究部会】 災害イメーシトレーニング ー「Facility・DIG」の紹介ー 上倉 秀之 セノン 45

展 示 会

1F 展示
ホール

9:50
～
18:00

特別講演



佐竹 健治
東京大学地震火山
史料連携研究機構長
地震研究所 教授



竹村 公太郎
日本水フォーラム
代表理事

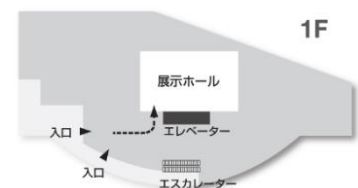
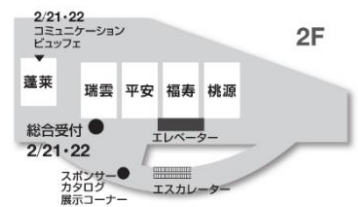
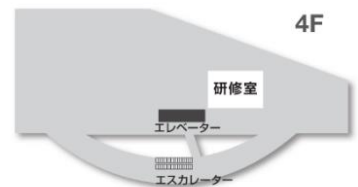
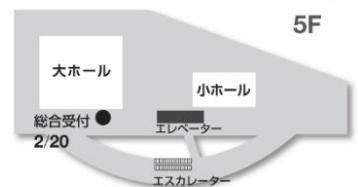


福原 正大
Institution for a Global
Society株式会社
代表取締役社長
慶應義塾大学経済学部
特任教授
一橋大学ビジネススクール
特任教授



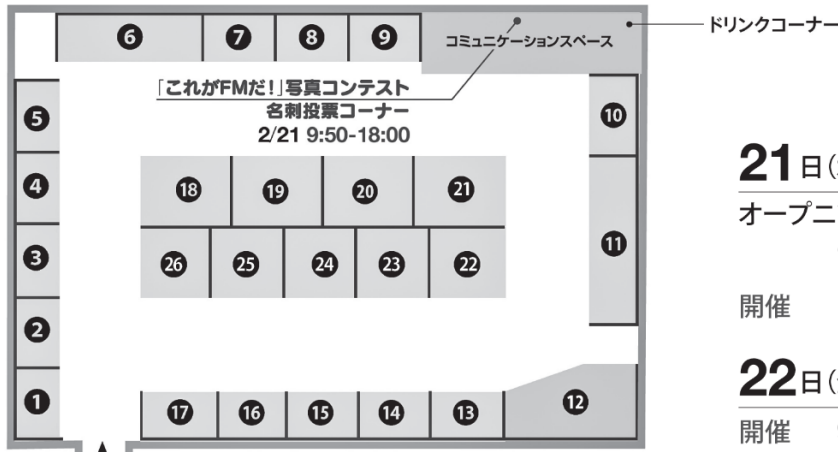
長谷川 直哉
法政大学人間環境学部
大学院公共政策研究科
サステイナビリティ学専攻
教授

フロア案内



2/21日(木)~22日(金) 展示会 / カタログ展示

展示会 51~58 1F 展示ホール



21日(木)

オープニングセレモニー

9:30- 9:50

開催 9:50-18:30

22日(金)

開催 9:50-18:00

展示会出展企業名

① リユース・パートナー株式会社	⑨ 株式会社 Offsis	⑮ リコージャパン株式会社
② 株式会社F Mシステム	⑩ 株式会社スターメンテナンスサポート	⑯ 日本メックス株式会社
③ 福井コンピュータアーキテクト株式会社	⑪ 共立建設株式会社	⑰ コクヨ株式会社
④ 株式会社ディー・サイン プレイスマネジメント研究所	⑫ 日本ビルメンロボット協議会	⑱ 株式会社オカムラ
⑤ 日比谷総合設備株式会社	⑬ 株式会社アプトシステム	⑲ 株式会社内田洋行
⑥ 大成建設株式会社	⑭ JR東日本ビルテック株式会社	⑳ 株式会社イトーキ
⑦ 株式会社エコ・24	⑮ 株式会社フロンティアコンサルティング	㉑ 株式会社ウフル
⑧ プロパティデータバンク株式会社	⑯ 株式会社アイスクウェアド	㉒ 株式会社 NTT ファシリティーズ
	⑰ 住友セメントシステム開発株式会社	㉓ シスコシステムズ合同会社

カタログ展示コーナー 会場: 2F ロビー

カタログ展示企業・団体紹介 (50音順)

イオンディライト株式会社

株式会社イトーキ

株式会社内田洋行

株式会社 NTTファシリティーズ

株式会社 FMシステム

大成建設株式会社

プロパティデータバンク株式会社

三菱地所株式会社

株式会社ウフル

株式会社ザイマックス不動産総合研究所

三機工業株式会社

住友セメントシステム開発株式会社

高砂熟学工業株式会社

株式会社竹中工務店

日本メックス株式会社

日比谷総合設備株式会社

福井コンピュータアーキテクト株式会社

プラス株式会社

株式会社山下PMC

株式会社 Offsis

株式会社構造計画研究所

株式会社コンステック

ジョーンズラングラサル株式会社

新日本空調株式会社

株式会社スターメンテナンスサポート

大星ビル管理株式会社

ダイダン株式会社

株式会社ビケンテクノ

東京都 環境局地球環境エネルギー部

一般社団法人 ニューオフィス推進協会



3. ウィークリーセミナー

F M最新話題に関するセミナーを、外部見学会も含めて開催した。受講者総数は 375 名。

場 所		J F M A 会議室（但し、見学会は現地。第 1 回は主婦会館プラザエフ）		
参 加 費 用		会員 2,000 円 非会員 3,000 円		
1	テ ー マ	破壊的イノベーション技術、BIM-FM、スマートシティ、不動産管理、エリアマネジメント		
	開 催 日	平成 30 年 4 月 10 日(火)	受 講 者 数	81 名
	講 師	The digit group 社長 Paul Doherty 氏、板谷敏正氏、土手英俊氏、他		
2	テ ー マ	魚町サンロード商店街におけるリノベーションまちづくり事業		
	開 催 日	平成 30 年 4 月 11 日(水)	受 講 者 数	14 名
	講 師	魚町サンロード商店街協同組合 理事長 梯 輝元氏		
3	テ ー マ	J F M A 賞から学ぶ FM のイロハ		
	開 催 日	平成 30 年 4 月 25 日(水)	受 講 者 数	22 名
	講 師	J F M A 専務理事 成田一郎		
4	テ ー マ	ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイス～「アクションの連鎖」		
	開 催 日	平成 30 年 5 月 8 日(水)	参 加 者 数	19 名
	見 学 会	第 12 回 J F M A 賞 最優秀 FM 賞 武蔵野プレイス		
5	テ ー マ	ファシリティマネジメントによるエンゲージメント経営の実践		
	開 催 日	平成 30 年 5 月 23 日(水)	受 講 者 数	20 名
	見 学 会	株式会社リンクアンドモチベーション本社（GINZA SIX）		
6	テ ー マ	公共施設マネジメントを実行に移すための解説書 「公共施設マネジメントのススメ」		
	開 催 日	平成 30 年 5 月 30 日(水)	受 講 者 数	24 名
	講 師	前橋工科大学工学部建築学科准教授 堤 洋樹氏		
7	テ ー マ	グループ協働を促進する FM ～その会話から生まれる 未来とつながる～		
	開 催 日	平成 30 年 6 月 6 日(水)	受 講 者 数	19 名
	見 学 会	キューピー株式会社 仙川キューポート		
8	テ ー マ	創造的 FM 手法による公民のパートナーシップの実現 ー我が国最大の病院 P F I 事業ー		
	開 催 日	平成 30 年 6 月 20 日(水)	受 講 者 数	17 名
	見 学 会	多摩医療 P F I 株式会社（都立多摩総合医療センター・小児総合医療センター）		
9	テ ー マ	オーストラリアの先進事例を参考にした日本人の為のオフィスの在り方 ー社員にとっての幸福と企業にとっての生産性は高次元で両立するー		
	開 催 日	平成 30 年 6 月 27 日(水)	受 講 者 数	25 名
	講 師	Calder Consultants Japan 代表 奥 鍊太郎氏		
10	テ ー マ	ここまで来た!! 業務用清掃ロボットの最新動向		
	開 催 日	平成 30 年 7 月 11 日(水)	受 講 者 数	34 名
	講 師	経済産業省 大臣官房調査統計グループ 鉱工業動態統計室 企画調整一係長 田中幸仁氏		
11	テ ー マ	「新たな価値を創造し続けるオフィス」を実現し、 「常に終わりのない進化をし続けるオフィス」を目指す		
	開 催 日	平成 30 年 7 月 19 日(木)	受 講 者 数	19 名
	見 学 会	三菱地所株式会社 新本社オフィス		

12	テ ー マ	「デンマーク「働く」のユートピアを求めて」		
	開 催 日	平成 30 年 7 月 25 日(水)	受 講 者 数	21 名
	講 師	株式会社オカムラ はたらくの未来研究所 所長 遅野井 宏氏		
13	テ ー マ	2020 年に向けた東京都心部賃貸オフィス市場の動向と展望		
	開 催 日	平成 30 年 1 月 30 日(水)	受 講 者 数	28 名
	講 師	三幸エステート株式会社 市場調査室長 今関豊和氏 株式会社ザイマックス不動産総合研究所 代表取締役社長 中山善夫氏		
14	テ ー マ	Facility・DIG(施設・災害イメージトレーニングゲーム)の体験		
	開 催 日	平成 31 年 3 月 6 日(水)	受 講 者 数	18 名
	講 師	株式会社セノン 部長 上倉秀之氏		
15	テ ー マ	在宅避難 3 日間運用ノート マンション被災時の設備被害診断		
	開 催 日	平成 31 年 3 月 27 日(水)	受 講 者 数	14 名
	講 師	株式会社ジエス 専務取締役 宮良拓百氏		

※平成 30 年 9 月～11 月の期間は「J F M A F M 秋の夜学校」として開催。

4. 専門分野特別セミナー

- (1) J F M A の調査研究部会(18 部会)が、それぞれの研究成果をテーマに「J F M A F M 秋の夜学校」として公開セミナーを開催した。
今期は一度に 2 部会が発表する方式とした。受講者総数は 291 名。

場 所		J F M A 会議室		
参 加 費 用		会員 2,000 円 非会員 3,000 円		
1	テ ー マ	①ユニバーサルデザインの基本的知識 ②ウェルビーイングを実現するためのファシリティマネジメント入門		
	開 催 日	平成 30 年 9 月 19 日(水)	受 講 者 数	30 名
	部 会 名	①ユニバーサルデザイン研究部会 ②こころとからだのウェルビーイング研究部会		
	講 師	①研究部会長 似内志朗氏(日本郵政不動産株式会社) ②研究部会長 高原 良氏(株式会社イトーキ)		
2	テ ー マ	①エネルギーマネジメント最前線 ②大学のファシリティマネジャーの役割 ～キャンパス FM を始めようとする大学のために		
	開 催 日	平成 30 年 9 月 26 日(水)	受 講 者 数	27 名
	部 会 名	①エネルギー環境保全マネジメント研究部会 ②キャンパス FM 研究部会		
	講 師	①研究部会長 横山健児氏(株式会社 N T T ファシリティーズ) ②研究部会長 藤村達雄氏(東京音楽大学)		
3	テ ー マ	① A I 時代の知的生産性とワークプレイスの展望 ②『Happy LivingWork Style を実現するワクワク「場」づくり』 FM 投資が生み出すハピネス時空間創造の実践		
	開 催 日	平成 30 年 10 月 10 日(水)	受 講 者 数	31 名
	部 会 名	①オフィス・ワークプレイスの知的生産性研究部会 ②人と場への FM 投資価値研究部会		
	講 師	①研究部会長 齋藤敦子氏(コクヨ株式会社) ②研究部会長 岡田大士郎(三幸エステート株式会社)		

4	テ ー マ	①施設のリスクマネジメントと緊急時対応 ②ヘルスケアの現場から ～押し寄せる情報化の波にFMはどう付き合うか		
	開 催 日	平成 30 年 10 月 17 日 (水)	受 講 者 数	28 名
	部 会 名	①リスクマネジメント研究部会 ②ヘルスケアFM研究部会		
	講 師	①研究部会長 上倉秀之氏 (株式会社セノン) ②研究部会長 森 佐絵氏 (清水建設株式会社)		
5	テ ー マ	①CRE (企業不動産) をいかにマネジメントするか ～個からトータルへのマネイメントへ ②FM財務評価の基礎知識		
	開 催 日	平成 30 年 10 月 31 日 (水)	受 講 者 数	31 名
	部 会 名	①CREマネジメント研究部会 ②FM財務評価手法研究部会		
	講 師	①研究部会長 大野晃敬氏 (東京オペラシティビル株式会社) ②研究部会長 大山信一氏 (三井住友建設株式会社) ②副部会長 篠原由紀氏 (株式会社ザイマックス不動産総合研究所)		
6	テ ー マ	①実務のわかるアセットマネジメント講座 ②「公共施設等総合管理計画」策定後の公共FMについて		
	開 催 日	平成 30 年 11 月 7 日 (水)	受 講 者 数	21 名
	部 会 名	①インフラマネジメント研究部会 ②公共施設FM研究部会		
	講 師	①研究部会長 中川 均氏 (株式会社ガイアート) ②研究部会長 高橋康夫氏 (公益財団法人群馬県建設技術センター)		
7	テ ー マ	①誰にでもできる初めてのレイアウト変更術 ②FM戦略の立案と実施のポイント (企業経営から都市経営まで)		
	開 催 日	平成 30 年 11 月 14 日 (水)	受 講 者 数	41 名
	部 会 名	①FMプロジェクトマネジメント研究部会 ②FM戦略企画研究部会		
	講 師	①部会員 金英範 (日産自動車株式会社) 部会員 平永那々子 (株式会社フロンティアコンサルティング) 部会員 小峯浩子氏 (株式会社ルクサ) ②研究部会長 高藤眞澄 (株式会社NTTファシリティーズFMアシスト)		
8	テ ー マ	①建物維持管理とICT・データベース利用 ②ファシリティマネジメントのためのBIM活用ガイドライン		
	開 催 日	平成 30 年 11 月 21 日 (水)	受 講 者 数	30 名
	部 会 名	①コンピュータ活用研究部会 ②BIM・FM研究部会		
	講 師	①部会員 秋山克己氏 (日本メックス株式会社) 部会員 木村圭介氏 (株式会社FMシステム) ②研究部会長 猪里孝司氏 (大成建設株式会社)		
9	テ ー マ	①ファシリティの品質を評価する ～オフィス評価項目の考え方 ②ファシリティマネジャーのための運営維持入門		
	開 催 日	平成 30 年 11 月 28 日 (水)	受 講 者 数	29 名
	部 会 名	①品質評価手法研究部会 ②運営維持手法研究部会		
	講 師	①研究部会長 野瀬かおり氏 (ファシリティマネジメント総合研究所) ②研究部会長 吉瀬 茂氏 (工学院大学)		

FM 秋の夜学校 特別セミナー

場 所		J FMA会議室		
参 加 費 用		会員 2,000 円 非会員 3,000 円		
1	テ ー マ	1984 年に訪問したFMI ～FMのルーツを探る～		
	開 催 日	平成 30 年 10 月 24 日 (水)	受 講 者 数	23 名
	講 師	柳澤 忠氏 (名古屋大学・名古屋市立大学 名誉教授)		

(2) FM－ISOセミナー

ISO41001 の内容、活用方法について全国 3 会場で実施。受講者総数は 158 名

場 所	①東京会場：JFMA 会議室 ②東京会場：主婦会館プラザエフ ③大阪会場：新大阪丸ビル別館 ④名古屋会場：ウインクあいち		
参 加 費 用	会員 3,000 円 非会員 5,000 円		
テ ー マ	①趣旨説明 ②FM国際動向及びISO-FMと公式ガイドの関係 ③ISO41001 概要版と認証制度 ④ISO41001 ユーザーズガイドの活用 ⑤事業メリットを引き出すISO構築方法		
開 催 日	①平成 30 年 6 月 28 日(木) ②平成 30 年 10 月 22 日(月) ③平成 30 年 11 月 12 日(月) ④平成 30 年 12 月 3 日(月)	受 講 者 数	①31 名 ②79 名 ③32 名 ④16 名
講 師	①JFMA 専務理事 成田一郎 ②株式会社松岡総合研究所 代表取締役 松岡利昌氏 ③JACO 事業開発本部長 青木 泉氏 ④JFMA ISO推進部長 川村正夫 ⑤JACO 顧問 山本富夫氏		

5. ファシリティマネジメント上級セミナー

ファシリティマネジメントの専門分野について、『FMの視点で考える。働き方改革、健康経営、サステナブル経営』というテーマで、上級者向けのセミナーを行った。企業、大学等で専門分野の最先端で活躍する方々を講師陣とし 3 日間で開催した。

また、このセミナーはCPD研修セミナーのポイント取得ができるセミナーとなっている。受講者総数は 42 名。

場 所	JFMA 会議室		
受 講 料	会員 30,000 円 非会員 45,000 円 (6 講義全日受講)		
開 催 日	平成 30 年 11 月 2 日(金)	受 講 者 数	14 名
1	テ ー マ	多様性と創造性の発揮による幸福な働き方	
	講 師	株式会社レア 代表取締役 大本 綾氏	
2	テ ー マ	コラボヘルスで進める健康経営	
	講 師	コニカミノルタ株式会社 人事部 部長 鈴田 朗氏	
開 催 日	平成 30 年 11 月 9 日(金)	受 講 者 数	14 名
3	テ ー マ	脱炭素時代の競争優位 ー社会が選ぶ企業とはー	
	講 師	法政大学 人間環境学部 教授 長谷川直哉氏	
4	テ ー マ	国内外の最新事例から働き方・健康経営を考える	
	講 師	コクヨ株式会社 ワークスタイル研究所 主幹研究員 齋藤敦子氏	
開 催 日	平成 30 年 11 月 16 日(金)	受 講 者 数	14 名
5	テ ー マ	ESG/SDGs の視点から考えるFMにおけるリスクとチャンス	
	講 師	株式会社日本総合研究所 創発戦略センター アナリスト 長谷直子氏	
6	テ ー マ	健康経営とワークプレイス～FMが実現する人と経営の幸福な関係	
	講 師	日本郵政不動産株式会社 開発事業本部 部長 似内志朗氏	

6. 公共向けFMセミナー

公共インフラの健全な維持管理のため、実体験を踏まえた講演をシンポジウム形式で実施した。受講者数は84名。

場 所	JFMA会議室		
受 講 料	会員、非会員とも 1,000 円		
開 催 日	平成30年9月15日(土)	受 講 者 数	24 名
1	テ ー マ	市民協働の街づくり ～市民協働の公共インフラメンテナンスとは	
	講 師	株式会社環境創造 代表取締役 轟明眞一郎氏	
開 催 日	平成30年10月20日(土)	受 講 者 数	22 名
2	テ ー マ	地方の現状を知る ～地方の公共インフラの現状と課題	
	講 師	元日本道路公団 山中鷹志氏	
開 催 日	平成30年11月17日(土)	受 講 者 数	20 名
3	テ ー マ	橋の調査・点検・診断の近未来展望（AIの活用）	
	講 師	山口大学 名誉教授 宮本文穂氏	
開 催 日	平成30年12月15日(土)	受 講 者 数	18 名
4	テ ー マ	民間セクターの活用 民間資金PPP／PFI事業の活用	
	講 師	Kaido&Associates 代表 海藤 勝氏	

7. JFMA FMサマースクール2018

FM・総務サービスを、組織内で実践する上で必要な基本エッセンス（基本ビジネス能力、ホスピタリティ能力、FM専門知識）を集中して学ぶセミナーを、計6日間開催し延べ113名が受講した。

名 称	J F M A F M サマースクール 2018	
1 日 目	平成 30 年 8 月 24 日(金) 10：30～17：20	
講 師 と 内 容	1 時 限 F M 概 観 F M の 考 え 方 と 事 例 か ら 学 ぶ	成 田 一 郎 J F M A 専 務 理 事
	2 時 限 ホ ス ピ ャ リ テ ィ 解 体 新 書	佐 藤 昌 弘 氏 (株)JTB コミュニケーションデザイン
	3 時 限 ホ ス ピ ャ リ テ ィ 自 己 診 断	
	4 時 限 ユ ー ザ ー の 声 を 聞 く ・ 聴 く ・ 訊 く	
2 日 目	平成 30 年 8 月 25 日(土) 10：30～17：20	
講 師 と 内 容	1 時 限 経 営 戦 略 、 マ ー ケ テ ィ ン グ	飯 尾 英 樹 氏 I I M O 代 表
	2 時 限 人 材 マ ネ ジ ム ン ト	
	3 時 限 オ ペ レ ー シ ョ ン マ ネ ジ ム ン ト 、 管 理 会 計	
	4 時 限 統 計 学	
3 日 目	平成 30 年 8 月 31 日(金) 10：30～17：20	
講 師 と 内 容	1 時 限 企 業 人 と し て の 影 響 力	飯 尾 英 樹 氏 I I M O 代 表
	2 時 限 ビ ジ ネ ス に 必 要 な 「 感 性 」 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ー 1	
	3 時 限 ビ ジ ネ ス に 必 要 な 「 感 性 」 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ー 2	
	4 時 限 M B A と F M の 実 践	川 村 裕 氏 ジ ョ ー ン ス ラ ン グ レ サ ー ル
4 日 目	平成 30 年 9 月 1 日(土) 10：30～17：20	
講 師 と 内 容	1 時 限 経 営 と F M	川 村 正 夫 J F M A I S O 推 進 部 長

講師と内容	2 時限 FMと業務	齋藤敦子氏 コクヨ株式会社
	3 時限 FMの知識	重綱鉄哉氏 株式会社イトーキ
	4 時限 POEとブリーフィング	成田一郎 JFMA専務理事
5 日 目	平成 30 年 9 月 7 日(金) 10:30~17:20	
講師と内容	1 時限 FM CRE 戦略	板谷敏正氏 プロパティ・データバンク株式会社 代表取締役社長
	2 時限 FMワークプレイス戦略	大川 徹氏 株式会社竹中工務店 ワークプレイス・ロデュース本部長
	3 時限 LCCO2とLCC	横山計三氏 工学院大学 教授
	4 時限 BIMのFMへの活用	猪里隆司氏 大成建設株式会社
6 日 目	平成 30 年 9 月 8 日(土) 10:30~17:20	
講師と内容	1 時限 未来を拓くファシリティ マネジャーの皆様へ	金 英範氏 日産自動車株式会社コーポレートサービス 統括部 部長 山田教彰氏 キリアト・サイエンス シニア ファシリティマネージャー
	2 時限 ISOとSLA/KPI	川村正夫 JFMA ISO推進部長
	3 時限 BCP立案(事業継続計画)	森 健氏 一社)リーガル・リスクマネジメント研究機構
	4 時限 グローバル化を考える	松岡 利昌氏 (株)松岡総合研究所 代表取締役
受講料	会員 60,000 円 非会員 70,000 円 学生 20,000 円	
場 所	JFMA会議室	
受講者延数	113 名	

付 4 . 表彰事業

付 4 表彰事業

ファシリティマネジメントに関する優れた業績、及び功績のあった組織と個人を年 1 回表彰する。この表彰の制度を日本ファシリティマネジメント大賞（JFMA 賞）と呼ぶ。

平成 18 年に創設以来、平成 30 年 2 月までに 13 回実施し、すでに 170 件を表彰している。候補案件の募集は公募を原則とし、産官学から招いた有識者 11 名を審査委員とする審査委員会において、授賞を審議する。

1) 表彰の種類

a. 優秀ファシリティマネジメント賞（公募）

ファシリティマネジメント手法を取入れ、優れた成果を上げている活動を表彰する。このうち特に優れた活動を「最優秀賞（鶴澤賞）」とする。該当なしの場合もある。

総合的かつ継続的にファシリティマネジメントが定着し経営に貢献しているか、コアビジネスへの貢献はあるか、ファシリティの利用者への貢献はあるか、ファシリティマネジメントの推進体制（組織、財務管理、情報管理、標準と規程管理等）を整備したか、ファシリティマネジメントサイクル（PDCA）を回しているか、時代のニーズに対応しているか、新規性・独創性があるかの視点で審査。

b. 技術賞（公募）

ファシリティマネジメントに関する、新しい手法・技術の取組みを表彰する。

ファシリティマネジメントの手法・技術の開発・普及に貢献するものか、新規性・独創性はあるかの視点で審査。

c. 功績賞（公募）

ファシリティマネジメントに関する優れた論文（博士論文及び同等以上の論文）、出版、その他の活動を表彰する。

ファシリティマネジメントの推進、普及に貢献するものかの視点で審査。

d. 特別賞（非公募）

優秀ファシリティマネジメント賞・技術賞・功績賞の応募の中から、ファシリティマネジメントの特定分野において優れた成果を上げ、特別に表彰すべきと認められる取組みを表彰する。

e. 特別功労賞（非公募）

ファシリティマネジメントの普及・拡大等に顕著な功績があった個人及び組織を表彰する。

f. 奨励賞（非公募）

優秀ファシリティマネジメント賞、技術賞、功績賞の応募の中から、今後の発展が期待されるものを表彰する。

2) 概 要

目 的		F Mに関する優れた業績及び功績のあった組織と個人を表彰することにより、日本国内におけるF Mの普及発展に資する。	
対 象		目的（日本国内におけるF Mの普及・発展に資する）に合致した、日本に拠点を置く組織・個人とする。 ただし、海外の取組み・活動であっても、特段に、日本国内におけるF Mの普及・発展に貢献したと認められる場合は、表彰の対象とすることができる。	
表 彰 の 種 類 (公 募)	優 秀 F M 賞	F M手法を取入れ、優れた成果を上げている活動を表彰する。 このうち特に優れた事例を「最優秀賞(鶴澤賞)」とする。	
	技 術 賞	F Mに関する、新しい手法・技術の取組みを表彰する。	
	功 績 賞	F Mに関する優れた論文、出版、その他の活動を表彰する。	
募 集 期 間		平成 30 年 7 月 1 日(日)～8 月 31 日(金)	
応 募 者 数		優秀F M賞:17 件, 技術賞:1 件, 功績賞:4 件 計 22 件	
発 表		平成 30 年 12 月 19 日(水)	
表 彰		平成 31 年 2 月 21 日(木) ファシリティマネジメントフォーラム 2019」にて	
後 援		経済産業省・国土交通省	
審 査 委 員	委 員 長	北川 正恭	早稲田大学 名誉教授
	副 委 員 長	深尾 精一	首都大学東京 名誉教授
	委 員	安達 功	株式会社日経 BP 執行役員
		鎌田 元康	東京大学 名誉教授
		栗田 豊滋	経済産業省 製造産業局 生活製品課 企画官
		住田 浩典	国土交通省大臣官房 官庁営繕部長
		長澤 泰	東京大学 名誉教授・工学院大学特任教授 名誉教授
		村田 博文	株式会社財界研究所 代表取締役
		柳澤 忠	名古屋大学・名古屋市立大学 名誉教授
		米倉 誠一郎	法政大学大学院 教授・一橋大学 特任教授
		成田 一郎	(公社)日本ファシリティマネジメント協会 専務理事

3) 受賞者

賞の種類	タイトル	F M実践組織・個人	サービス提供者
最優秀 F M賞 (鶴澤賞)	横浜銀行における ファシリティマネジメントの実 践について	株式会社横浜銀行	株式会社 N T T ファシリティーズ
優秀 F M賞	三菱地所本社移転を通じた F M戦略の実現とまちへの展開	三菱地所株式会社	株式会社 メック・デザイン・インターナショナル
優秀 F M賞	ビジネスの変化に迅速に対応 する“AGILE OFFICE”	日本アイ・ビー・エム 株式会社	株式会社日建スペースデザイン
特別賞	組織的かつ継続的な FM による 県有施設の利活用の取組	青森県	・株式会社日建設計 ・奥村・鹿内・盛特定建設 工事 JV ・張山・日善・弘都特定 建設工事 JV ・北洋電設・高橋電気工業 特定建設工事 JV ・弘水・東弘・大管特定建設 工事 JV ・青森設備・アスモ特定 建設工事 JV
特別賞	F M (AM) 手法により アセットを有効活用し、 地域の活性化を目指す	株式会社ガイアート	—
特別賞	復興まちづくりにおける 庁舎づくり ～まちの未来につながる F M	宮城県南三陸町	・株式会社久米設計 ・南三陸町新庁舎建設 FSC 認証材利用プロジェクト グループ ・「山さ、ございん」 プロジェクト実行委員会 ・東北大学大学院 小野田泰明教授
功績賞	地方自治体の公共施設 マネジメント ー公共建築物に関する個別施設 計画の 策定方法に関する研究	上森貞行 盛岡市 財政部 資産経営課	—
奨励賞	理想の働き方のために働く「場」 を変える、オフィス改革の挑戦	総務省行政管理局	—
奨励賞	“A Better Workstyle” を目指 すパナソニックグループの オフィス改革	パナソニック株式会社	・パナソニック・パナソニックビジネス サービス株式会社 ・株式会社イトーキ ・パナソニックソリューションテクノロジー 株式会社
奨励賞	働き方改革を促進させる F M ～自律と協業がもたらす新たな 企業風土～	ノキアソリューション ズ&ネットワークス 合同会社	・株式会社システムオーデザイン コンサルティング ・グローバルシップ・ソテック・ コーポレートサービス株式会社 ・International Real Estate Partners 株式会社
奨励賞	東京メトロ銀座線リニューアル における F M の活用と実践	東京地下鉄株式会社	株式会社日建設計

奨励賞	川崎駅東口周辺におけるリノベーションまちづくり ～遊休不動産等を活用した公民連携によるFMの取組～	川崎市	・株式会社ヨネヤマ ・株式会社 NENGO ・株式会社サニーワンステップ
奨励賞	“メンテナンス” から “ ファシリティマネジメント” へ	イケア・ジャパン 株式会社	・IKEA Service AB ・IKEA Pty Ltd
奨励賞	コミュニケーションと業務の 質・スピードが向上できる FUN のある場	日本マクドナルド 株式会社	・ジ・ヨーンズ ランダ ラサル 株式会社 ・株式会社乃村工藝社 ・株式会社サ・デザイン・ スタジオ

以上、計 14 件。

付 5．調査研究事業

付 5 調査研究事業

1. 調査研究部会活動

調査研究部会は次の 3 分野 18 部会である。以下活動報告を記す。

(1) マネジメント研究分野

① FM 戦略企画研究部会 《部会長 高藤眞澄》

◇メインテーマ

都市・地域経営と FM 戦略

サブテーマ：今後の都市・地域の持続可能性に貢献する FM 戦略

2015 年国連にて採択された「持続可能な開発目標 (SDGs)」の「G11：都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする」の実現を目指し乍ら以下事項を検討する。

- i) 都市・地域の持続可能性の向上に必要な要件を明らかにする
- ii) これからの都市・地域に求められる「地域の価値」を検討する
- iii) 「地域の価値」創出の具体的事例を研究する
- iv) 事例にて PRE 戦略を含む公共 FM 戦略の貢献を明らかにする

◇活動実績

原則、毎月 1 回の部会開催において、自主研究の発表と意見交換、研究テーマに関連した情報交換、外部専門家による講演の実施等を行い、部会としての研究テーマに対する検討を進めた。以下にその概要を示す。

- ・4/11-魚町サンロード商店街まちづくり事例紹介（講師：公共 FM 部会・安藤氏）：商店街協同組合による商店街の老朽劣化したアーケードの撤去を契機としたリノベーションによるまちづくり事業と粘り強く公共の支援を得た経緯を確認した。商店街の環境整備により来客数の増大を実現した。
- ・4/26-神山市のまちづくり事例研究（部会員・吉田氏）：1991 年の青い目のアリスと呼ばれる人形を、「祖国であるアメリカに里帰りさせたい」と願う地域の有志の集いが始まりで、神山市国際交流協会⇒国際文化村委員会⇒NPO グリーンバレーと体制が続き、アーティスト・イン・レジデンスや神山塾、TV 難視聴対策用に整備された光 NW を背景にしたサテライト・オフィス誘致など、移住支援を軸とした事業を主に手がけ、国内外から移住者を受け入れ、人口は自然減により減少するが、2012 年に初めて社会増を実現している。
 1. 「人」をコンテンツにしたクリエイティブな田舎づくり
 2. 多様な人の知恵が融合する「せかいのかみやま」づくり
 3. 「創造的過疎」による持続可能な地域づくりを進め、住民参加や公共と連携した街づくりに発展している。
- ・6/21-公共 FM 部会合同部会開催：まちづくりと公共 FM のテーマで、意見交換を実施。民の主体的なまちづくり活動が中核となり、公共は支援していく、連携した施策を実施していく対応が重要であると認識。
- ・7/19-国連 SDGs および SDGs 未来都市の研究（部会員・塚田氏）：持続可能性に関して、SDGs のほか ISO37120、Global City Indicators など多くあり、相対関係を確認。持続可能性の評価項目と対象範囲を FM 戦略企画研究部会として確認。

② FM プロジェクトマネジメント研究部会 《部会長 吉井 隆》

◇メインテーマ

働き方改革を実現する「場と仕組みづくり (FM)」のプロジェクトマネジメント手法を調査研究する。

また、働き方改革を意識していない構築プロセスとの違いを明らかにする。

◇活動実績

- i) 働き方改革を実現する「場と仕組みづくり (FM)」のプロジェクトマネジメント手法に関する調査研究。
 - ・目標設定と目標づくり
 - ・目標の項目と評価方法
 - ・プロジェクト体制づくり
 - ・マスタースケジュールづくり
 - ・「投資」としての予算づくり
 - ・ワークプレイスプログラミング
- ii) 働き方改革に向けた各種施策を行っている先進企業の事例視察。

4 月 Phone Appli

5月 三井デザインテック
6月 三菱地所本社
7月 Chatwork
8月 内田洋行
9月 NEC ネットエスアイ
10月 アステラス・アムジェン・バイオフーマ
12月 Sony-City
1月 アデコ
2月 リンクアンドモチベーション

iii) 調査研究成果及び先進企業事例視察成果の養成普及を実施。

- ・秋の夜学校での成果報告
「誰にでもできる初めてのレイアウト変更術」
- ・ファシリティマネジメントフォーラムでの成果報告
「新たな価値創造」に向けたFMプロジェクトマネジメントの世界

③リスクマネジメント研究部会 《部会長 上倉秀之》

◇メインテーマ

- ・レジリエンスに関する研究と事業継続に関する報告書の改訂
- ・「帰宅困難者施設受け入れ」に関する検討
- ・災害時の災害弱者対策の検討

◇活動実績

ほぼ毎月、月例の研究部会を開催し情報交換及びセミナーを実施した。平成30年度はこの取り組みが「F・DIG」の開発に繋がり、継続的に普及を図る手法となった。

- ・レジリエンスに関する研究と事業継続に関する報告書の改訂
施設に関するリスク分析を進める中、北海道胆振東部地震及び全道ブラックアウト、台風21号等の台風被害、西日本豪雨と災害の様相が新たなリスクを顕在化させたため、災害情報のイメージ共有について研究を進めた。
常葉大学・小村教授の開発した「DIG（災害イメージゲーム）」を元に施設の要素を加味し「F・DIG（施設・災害イメージトレーニングゲーム）」として開発中である。
今後、ファシリティマネジメントフォーラム2019及び平成31年3月6日開催のウィークリーセミナーで紹介するとともに、継続して普及・改良に努める
なお、報告書改定は災害リスクの変化に伴い全面的に手を加え修正版を次年度に取り組む予定。
- ・「帰宅困難者施設受け入れ」に関する検討
帰宅困難者受け入れ図上訓練「KUG」について損保ジャパン担当者によるセミナーを開催し問題点の共有や今後の普及について情報交換を実施した。
- ・災害時の災害弱者対策の検討
関係部会員による情報交換を行った。

④エネルギー環境保全マネジメント研究部会 《部会長 横山健児》

◇メインテーマ

平成29年度は資源、大気、水、エネルギーをテーマに持続可能な社会を支えるファシリティマネジメントについて検討した結果、内包する環境価値の重要性が明らかとなった。平成30年度はこれら環境価値に加えてSociety 5.0の概念を取り入れ、IoTやAI等の最先端技術を活用したエネルギー環境保全に関する調査研究を行った。

◇活動実績

平成30年度は、Society 5.0の概念を取り入れ、IoT&AIや水素などの最先端技術にも注目して調査研究を実施した。この結果、デジタル変革（DX）による新サービス同様、環境社会においてもシステム／サービス連携、設備シェアリング、手段の多様化が有用であることを見出した。

主な成果を以下のとおり。

i) システム連携で実現する環境社会

ビル&エネルギーマネジメントにおいては、システム連携により施設内の情報が一元管理され、AIを活用して分析・予測し、設備の制御が実施され始めており、この技術を用いてZEBが実現されている。さらに、この技術で設備の故障・劣化診断が可能となっている。

ii) サービス連携で実現する環境社会

サービス連携の例として、ドイツのシュタットベルケ、二国間クレジット制度（JCM）、

SDGs による都市オアシスの例を取り上げ、その有用性を示した

iii) シェアリングで実現する環境社会

設備シェアリングとしては、熱エネルギーのネットワーク化が大きな効果をあげている。エネルギーの面的融通による高効率化が実現されると共に供給の強靱化、予備機の共有、BCD (Business Continuity District) 対応も可能となっている。

iv) 多様化で実現する環境社会

多様な再生可能エネルギーの導入に加えて、再生可能エネルギーの余剰電力を貯めるために多様な電気エネルギー貯蔵方法が開発されている。リチウムイオン電池などの化学電池に加え、大容量・長期間の貯蔵を得意とするガス貯蔵（水素やメタン）の導入も始まっており、多様化による適材適所の運用が可能となっている。

これらの調査結果を取り纏めてファシリティマネジメントフォーラム 2019 で発表し、環境社会に向けた提言を行った。

⑤CRE マネジメント研究部会 《部会長 大野晃敬》

◇メインテーマ

中長期的な視点に立脚して企業活動を支えるとともに、企業価値向上に貢献することを目的とした“企業不動産 (CRE) マネジメント”に関する体系的な手法研究、及び国内企業への普及と促進

◇活動実績

i) CRE マネジメントに関する最新事例調査

参加委員による討議や意見交換を促進しつつ最新の手法を研究した。

また、昨今の働き方改革の取組みの中、不動産賃貸市場での最新の動きであるサービスオフィスのサイト見学も実施。具体的な調査対象は以下を実施。

- ・山下 PMC が考える CRE/PRE マネジメントについて (5/29)
- ・健康・快適なビル認証の動向について (国土交通省)
- ・日本マクドナルドリニューアルオフィス見学 (7/31)
- ・2018-19 年に不動産に影響を与える今年の 10 大テーマ (8/28)
- ・東京オペラシティビルにおけるビル管理手法 (10/31)
- ・CRE 戦略推進に向けたアウトソーシングの戦略的活用 (12/18)

ii) CRE マネジメントの普及・促進

平成 27 年度に編纂した CRE マネジメントハンドブックを広く公開、頒布するとともに、今研究部会における最新研究を紹介するなど、JFMA 会員企業ならびに多くの国内企業に対して CRE マネジメントの有効性を PR する。

- ・秋の夜学校にて講演 (10/31)
- ・ファシリティマネジメントフォーラム 2019 での講演「CRE 戦略推進に向けたアウトソーシングの戦略的活用」

⑥人と場への FM 投資価値研究部会 《部会長 岡田大士郎》

◇メインテーマ

「ワークプレイス」への FM 投資価値評価を、金銭的視点での定量評価のみならず、人間の「感性」や「心情」といった心理的視点、また、「働き心地」や「快適性」など身体的視点での定性評価にも焦点を当て、FM 投資意義とその投資効果等を、経営者にとっても納得感のある「定性評価手法」を研究し、戦略経営 FM の普及を目指す。

◇活動実績

平成 30 年度の活動は以下のとおり。(開催日、場所、主議題)

- 4 月 19 日 東京建物 コモレビズの紹介、見学、投資価値の議論
- 5 月 17 日 Phone Appli 社のオープンオフィスの見学と意見交換
- 7 月 2 日 大林組技術研究所 「大林組 技術研究所」の見学と意見交換
- 8 月 9 日 JFMA 「大林組 技術研究所」の振り返り
- 9 月 27 日 JFMA 中期計画討議
- 11 月 30 日 ザイマックス 中期計画討議
- 12 月 20 日 ファシリティマネジメントフォーラム討議
- 1 月 17 日 構造計画研究所 ファシリティマネジメントフォーラム討議
- 2 月 14 日 構造計画研究所 ファシリティマネジメントフォーラム討議
- 2 月 22 日 タワーホール船堀フォーラムでの発表 (トークセッション)
- 3 月 14 日 ギリアド本社 ・フォーラム振返り 次年度計画作成

大林組の技研視察をはじめ、「人と場」投資の事例を検証。

東京建物並びに Phone Appli 社の CaMP オフィスでは、自然をテーマとしたバイオフィリアオフィスへの取り組みを視察。

特筆すべき点は2月のファシリティマネジメントフォーラム2019において、100名を超える聴講者の来場があったこと。このテーマの関心の高さを改めて確認できた。

⑦こころとからだのウェルビーイング研究部会 《部会長 高原 良》

◇メインテーマ

「ウェルビーイングを実現するFM実践手法の確立」

働く人のウェルビーイングに関連するFMの知識や情報を幅広く収集し、それらをファシリティマネジャー向けの実践ノウハウとして体系化して発信を行う。

また、部会発足初年度として、部会メンバー同士の積極的な交流を図る。

◇活動実績

i) 情報収集と意見交換

調査研究部会立上げ以降、部会員らと十分な議論を行った。

・部会の目的、目指す成果物

→FMによるウェルビーイングな環境を社会に増やす

→社会的な取り組み喚起のためのツールの作成、公表

ファシリティマネジャーの実務支援ツールの作成

・調査活動計画

→ウェルビーイングな人、会社へのヒアリング調査

・「ウェルビーイング」の捉え方、その在り方

・「ウェルビーイング」の実践者、あるべき対象者の抽出

(調査研究部会の会合は 計7回実施。)

ii) ファシリティマネジャー向け実践の手引き作成に向けて

・手法の検討

ウェルビーイングを促すFM実践手法の一つとして、ファシリティマネジャーのユーザーヒアリングをサポートするツールについて検討を行った。

iii) 対外発信など

・研究部会活動からの情報・所見も踏まえ参画した。

ファシリティマネジメントフォーラム2019 「働き方改革シンポジウム」

・ウィークリーセミナー講演(秋の夜学校)

ファシリティマネジメントを通じて人々のウェルビーイング(身体的、精神的、社会的に良好な状態)の実現に貢献し、笑顔と活力の溢れる社会を実現する。

⑧インフラマネジメント研究部会 《部会長 中川 均》

◇メインテーマ

引き続き官民連携を基本とするインフラマネジメント手法の導入を目指し、地方自治体に対しヒアリング、FM的側面からのインフラマネジャー育成、及びISOの活用等について調査研究を行う。

併せて平成27年2月に発足以来、本年度で3年目を迎えることを鑑み、協会内のファシリティマネジャー育成の各種研修会運営に積極的に参加し、FMとインフラマネジメントの融合を目指した。

◇活動実績

i) 啓発セミナー分科会

・5月9日 公益社団法人日本観光振興協会 小山審議役講演会開催

テーマ:観光事業におけるインフラ・FMの活用について

・6月13日 現地事例研究 「白糸ハイランドウェイの事業運営」

・11月7日 秋の夜学校「実務の判るアセットマネジメント講座」

・JFMA公共インフラマネジメント連続シンポジウム

テーマ「公共インフラ健全な維持管理」全4回

9月15日 「市民協働の公共インフラメンテナンスとは」

10月20日 「地方の公共インフラの現状と課題」

11月17日 「橋の調査・点検・診断の近未来展望」

12月15日 「民間セクターの活用」

・ファシリティマネジメントフォーラム2019「公共FMシンポジウム」(公共FM研究部会と共催)

2月21日 「公共インフラ健全な維持管理」

ii) 教本作成分科会

・出版元をJFMA出版とすることで構成・章立てを終了し、部会員で分担し作成作業に着手、5月中には原稿集約の見通し

・教本作成活動をSNSにて展開中

iii) ISO分科会

- ・2月21日ファシリティマネジメントフォーラム「グローバルFMシンポジウム」にISO55001事例報告
- iv) 外部団体との連携
- ・国交省インフラメンテ国民会議実行委員として引き続き部会長中川、副部会長岩佐を派遣。
- ・10月17日 一般社団法人日本観光自動車道協会会員との「アセットマネジメントに関する勉強会」開催

(2)施設事例研究分野

①キャンパスFM研究部会 《部会長 藤村達雄》

◇メインテーマ

大学は、近年、人口減少期問題、ガバナンス・マネジメントの再構築、教育の質向上の実現、生き残り等、戦略的な経営が求められている。キャンパスFMは、これらのことを踏まえ、長寿命化、省エネ、安全確保、合理化・効率化等を実践していく必要がある。このため、当部会では、FMの視点から求められるキャンパスの姿を再度、整理する。この整理を踏まえ、今後、2008年発行のガイドブックを見直すことを考えてゆく。

◇活動実績

i) 大学経営支援に係るFMキーワード・マップの共有化

4月～11月の部会において「大学の教育研究や経営に関わる問題点」「大学経営における収入を増やす方策」「財務力の強い大学とは」「選ばれる大学をつくる」などをテーマに議論した。

ii) キャンパスFMガイドブックの編集

12月からの部会では「キャンパスFMガイドブック2008」と「公式ガイドブック2018」を比較した資料等を参考にした「企画書」の議論を続けている。

iii) 秋の夜学校

9月26日(水)、初心者のためのFM秋の夜学校として「大学のファシリティマネジャーの役割」を発表。

iv) ファシリティマネジメントフォーラム2019

2月22日(金)ガイドブック見直しを踏まえ「大学淘汰時代を乗り切るキャンパスFM」を発表

②ヘルスケアFM研究部会 《部会長 森 佐絵》

◇メインテーマ

健康・医療・福祉に関わる施設経営戦略を包括的に扱うHC FMの導入・普及

◇活動実績

i) 定例部会等

11回開催・新規入会2名・病院インハウスメンバーの入会によりパワーアップした。

1年を通し「病院のBCP」「病院と地域のIoT」を中心に討論を行った。

他に下記企画で病院課題の深耕を図った。

また、部会員の認定FMer資格習得を支援した。

・見学会2回

6月-都立多摩・小児総合医療センター / 1月-埼玉医大国際医療センター

・部会セミナー1回

物品管理の視点から取組んだ診療材料の支出削減事例：H.P.A.(株) 古月氏

ii) ファシリティマネジメントフォーラム2019

・シンポジウム

「病院のデジタル改革の実践-病院FMとサービスマネジメントの融合-」(和泉・加藤)

・調査研究部会「病院FMの未来を考えよう」(平沼)

・他関連「JFMA賞その後」セミナー 中野こども病院、倉敷中央病院を部会員で聴講

iii) JFMAウィークリーセミナー「秋の夜学校」

・10月-「ヘルスケアの現場から-押し寄せる情報化の波にFMはどう付き合うか」

・柳澤先生特別セミナー「1984年に訪問したFMI」を部会員で聴講

iv) 外部講演

・11月-HOSP EX医業経営セミナー「病院情報マネジメントとFMの実際～数ある情報を有益とするために～」(聖路加国際病院門田氏・ヘルスケア部会森)

v) 医療関連団体との連携活動

上記活動や部会オブザーバーとの交流を通し、関連団体との連携を維持

(カッコ内は部会側担当者)

・日本医業経営コンサルタント協会(森)

- ・日本医療福祉設備学会（森）
- ・日本医療福祉建築学会（森）
- ・日本看護協会（和泉）
- ・病院管理学会・集団災害医学会（上坂）

③公共施設FM研究部会 《部会長 高橋康夫》

◇メインテーマ

自治体における公共施設FMの普及推進と今後の社会状況、変化に対する安心・安全な地域づくり、公共施設運営に向けた公共資産の最適な施設維持管理運営、品質向上に向けての公共FMへの取り組み、調査、研究を行うとともに、個別施設計画策定に向けて参考となる講演を行った。

◇活動実績

i) 定例研究部会：原則月1回講師を招聘し基調講演を開催、討議研究を行った。

4月：宮崎恒一氏：(株)エコ・24「アスベストを取り巻く最新社会情勢と公共施設の対策事例」

5月：松村俊英氏：ジャパンシステム(株)「公会計情報と施設マネジメントとの連動」

6月：高藤眞澄氏：(株)NTTファシリティーズ FMアシスト・安蘇秀徳氏：東京美装(株)

「これからのまちづくりへの取り組みと公共FMの役割」

7月：松本英明氏：焼津市役所「焼津市の公共FMの動向」

9月：小宮智典氏：国立市役所「国立市の公共FM活動」

10月：杉山健一氏：東村山市役所「公共FMにおける包括管理委託」について。

11月：宮谷卓志氏：鳥取市役所「鳥取市の公共FM活動」について。

12月：海川拓也氏：日本管財(株)「地域住民と歩む公共FM」について。

1月：伴宣久氏：台東区役所「台東区の公共FMとまちづくり」について。

3月：倉斗綾子氏：千葉工大「学校施設個別施設計画の内容」について。

ii) ファシリティマネジメントフォーラム2019への協力

インフラマネジメント研究部会と共同でシンポジウムを開催し、公共FMの啓蒙を行った。

iii) まとめ

公共FMは公共施設等総合管理計画の策定を終え、個別施設計画へシフトして行く過程で、先を見据えた内容とするため研鑽を深めた。

④ユニバーサルデザイン研究部会 《部会長 似内志朗》

◇メインテーマ

・ワークプレイスのユニバーサルデザインの価値を明らかにし、道具立てをつくる。

・健康経営（シンポジウムを踏まえた書籍刊行活動）

◇活動実績

・部会員とのユニバーサルデザインについての探求

・健康経営に係る書籍刊行に併せた「健康経営」に関する活動

・CASUDA改訂、コンサルティングの検討

・部会員の講演によるユニバーサルデザインの深耕

・ウィークリーセミナー秋の夜学校での講演「ユニバーサルデザインの基本」

・ファシリティマネジメントフォーラム2019：働き方改革シンポジウム「人と経営のためのファシリティマネジメント」

・JFMAジャーナル（ファシリティマネジメントフォーラム2019記録）

・書籍刊行（シンポジウム記録を含む）「健康経営とワークプレイス」

(3)固有技術研究分野

①運営維持手法研究部会 《部会長 吉瀬 茂》

◇メインテーマ

～『納得感のもてる最良の運営維持』を目指して～

ユーザーの視点に立ったファシリティ運営維持業務とその評価に関するあり方を探る

◇活動実績

～コミュニケーションツールで『きっかけづくり』人と社会との関わりを良好に保つために～

i) コミュニケーションツールを基に「身近な省エネルギー～取組へのヒント～」をテーマに研究活動を行った。誰にでもできる取組みの手法（考え方）として「身近な省エネルギーの手法（考え方）と評価」について実務経験者の視点から資料収集。また、部会と別にWGを設置して3回の会合を開催し研究活動を行なった。

部会活動成果をファシリティマネジメントフォーラム2019で「～運営維持の視点で『きっかけづくり』～ベンチマークを活用したエネルギー消費原単位の推測～」と題し紹介。

また、ウィークリーセミナー秋の夜学校（12月13日）で「ファシリティマネジャーの

運営維持入門」と題し、Life Cycle Management の取組み方（考え方）について」紹介。
ii) このコミュニケーションツールの理念を基に継続したトライアルを実施、取組事例として取り纏めた。
iii) テーマに関連する分野の専門家等を部会へ招聘し、部会セミナーを4回、見学会を2回、秋の夜学校での講演1回を開催し意見交換を行った。

②品質評価手法研究部会 《部会長 野瀬かおり》

◇メインテーマ

オフィスビルのトイレ品質評価

◇活動実績

社員の健康を支えるファシリティのひとつとして、オフィスビルのトイレ品質について、評価手法を開発し、ファシリティマネジメントフォーラム2019で発表した。

平成29年度に検討したハード面での評価項目を精査し、ソフト面での評価項目や評価結果の利用方法を検討して、「オフィスのトイレチェックリスト」として整理した。

また、評価項目を事前調査するためのアンケート例を「オフィスのトイレ評価項目（事前調査例）」として整理した。

部会開催実績は、次のとおり

4月14日、5月12日、6月9日、7月14日、8月26日、10月13日、11月10日、12月8日。毎回、土曜日13時から17時近くまで、途中10分程度の休憩を挟んで議論した。

なお、2月は、ファシリティマネジメントフォーラム2019にて遠隔地（大阪、仙台）の部会員と交流した。

また、9月8～9日には、名古屋・岐阜にて合宿を行い名古屋大学減災館、ジェンダーリサーチライブラリー、岐阜城、岐阜歴史博物館などを見学した。

また、名古屋FMの会との交流を図った。

③FM財務評価手法研究部会 《部会長 大山信一》

◇メインテーマ

FM財務評価の更なる普及を図る（理解のし易さを追求し、広範な浸透を目指す）

◇活動実績

i) 公式ガイド「ファシリティマネジメント」発刊に伴うFM財務評価手法の改訂を反映した「FM財務評価ハンドブック」の改訂。

部会で検討実施（平成30年4月、5月、6月、9月、11月、12月、1月、2月、3月）

ii) リース会計基準の変更など財務関連情報の収集・研究

日本での新リース会計基準導入に備えた準備として部会員（河合氏）より情報提供があった（平成30年3月）。

iii) その他、FM財務関連情報の収集・研究

部会員（一箭様）から「大学のFM財務評価」についてご紹介頂いた（平成30年5月）。

部会員（篠原様）から「価値協創のための統合的開示」におけるFM財務評価の役割についてご紹介頂いた（平成30年7月）。

部会員（坂田様）の紹介により、コニカミノルタ様を取材し同社におけるSDGsや環境負荷低減の取り組みをお聞きした（平成30年8月）。

部会員（一箭様）からファシリティマネジメントフォーラムで発表予定の「大学のFM財務評価」についてご紹介頂いた（平成30年10月）。

部会員（坂田様）から「コニカミノルタにおけるFM取り組み事例」についてご紹介頂いた（平成30年10月）。

部会員（河合様）から「マイクロソフトにおけるファシリティコスト管理の事例」についてご紹介頂いた（平成30年10月）。

部会員（浦川様）から「赤坂インターシティAIRのオフィス」についてご紹介頂いた（平成30年12月）。

④オフィス・ワークプレイスの知的生産性研究部会 《部会長 齋藤敦子》

◇メインテーマ

知的生産性を支えるワークプレイス・モデル「SOF」（ワークスタイル、組織、ファシリティ）の研究開発と、実践のためのツールづくり。

また、知的生産性に関する関連団体との情報交流、ファシリティマネジメントフォーラム2019、オフィス学会や建築学会等での研究成果の発表。

◇活動計画

i) 月1回程度の研究会の開催

ワークプレイスと知的生産性に関するトレンド調査や意見交換

メンバー企業のオフィス訪問など

ii) 分科会でのSOFモデルの検討

項目のスクリーニングを目的としたアンケート調査実施
実企業でのアンケート・トライアルを実施。
アンケート結果からのコンサルティングも含め実施上の課題、改善策等を抽出・検討。
S O F の項目毎ステージ評価システムの作成
iii) 外部研究機関との協働
オフィス学会や建築学会等での発表とフィードバック
iv) 研究成果の発表
ファシリティマネジメントフォーラム 2019、ウィークリーセミナー、オフィス学会、建築学会での発表
J F M A ジャーナルへの執筆

⑤ コンピュータ活用研究部会 《部会長 天神良久》

◇ メインテーマ

F M 領域に係わる ICT 新技術の調査
「保全システムの活用事例の調査」
「Eco・Lcc 削減を可能にする環境配慮型 ICT 新技術の調査」
「AI・BIM を利用した FM での活用事例調査」

◇ 活動実績

月 1 回の部会・勉強会の実施。3 回の見学会を実施。
H30 年度の「勉強会・見学会」
4 月：名詞管理ソフトが益々新化 HotProfile の機能について
5 月：ディー・サイン社のオフィス見学
6 月：仮) NII で実験している、汎用 CAD と Web アプリを連動する CAFM システム
7 月：FINALCAD -BIM と連携するスマホアプリ-
9 月：GLOOBE -BIM+FM 建築設計システム-
10 月：施設管理クラウドサービス FM for Dynamics
11 月：RPA (ロボティック・プロセス・オートメーション) について
12 月：関西ペイントギャラリー「マンション修繕工事と塗装」見学
1 月：IoT を活用した設備管理・警備・清掃業の変革
2 月：ファシリティマネジメントフォーラム 2019「POE・CAFM・BIM-FM の最新事例の発表」
3 月：ITOKI TOKYO XORK のオフィス見学

⑥ B I M・F M 研究部会 《部会長 猪里孝司》

◇ メインテーマ

B I M・F M 連携ガイドライン作成
B I M・F M 連携による BIM および FM の高度化

◇ 活動実績

研究部会を月 1 回開催し、「ファシリティマネジメントのための B I M ガイドライン」の作成に向け、コンセプト・構成・内容について議論した。
ガイドラインには、関係者の役割や B I M 実行計画、FM で必要とされる B I M モデルについて解説している。平成 31 年 3 月末でガイドラインの原稿が完成し、出版に向けた作業を実施。
また、FM での B I M 活用事例について、部会員が試行している事例等公表されていない事例について情報共有した。FM での B I M 活用は公表されている事例が少なく、貴重な機会となった。一部の事例については、ガイドラインで紹介している。

2. ファシリティマネジメント国際標準化（ISO）への対応

FMのISO認証規格が発行された後も、国際全体会議動向の把握に努めた。

3. 海外ファシリティマネジメント調査団

海外におけるファシリティマネジメント先進事例を調査・研究すると共に、海外のファシリティマネジメント関係者と交流しネットワークを構築することにより、わが国のファシリティマネジメントの発展に資するため、海外を対象に調査団を次のとおり派遣した。

- (1) テーマ : 北欧3国FM・不動産視察調査
- (2) 訪問先 : フィンランド、スウェーデン、デンマーク
- (3) 期 間 : 平成30年9月22日～同月30日
- (4) 参加人数 : 31名
- (5) 視察調査場所（視察のポイント）
 - ・ ヘルシンキ
 - ① アルヴァ・アアルト自邸（事務所兼独立住宅）
世界的建築家の自宅兼アトリエ
 - ② ヘルシンキ大学（フィンランド最古且つ最大の大学）
市と大学が共同運営する、大学と市民と企業を繋ぎ合わせる「場」。
 - ③ セナッティ（フィンランド政府出資特殊会社社屋）
ファシリティマネジメント及び労働環境等をコンサルティングしている元国営企業。
 - ・ スtockホルム
 - ① 市庁舎（歴史的建造物）
1923年竣工。ノーベル賞晩餐会の会場。20世紀建築の傑作。
 - ② ハンマルビーショースタッド地区（環境に優しい街づくり）
元工業地区。オリンピック誘致に端を発し環境保護先進モデル地区とする事業を市が主導し始める。エネルギー、ごみ、水の3要素から独自のエコサイクルを構築。
 - ・ コペンハーゲン
 - ① ブロックスハブ（オフィス、居住施設、保育施設、ホールなどの複合施設）
ビール工場跡地の都市開発。広場スペースを大きく確保、会社、人を繋げる機能。
 - ② ヤン・ゲール設計事務所（著名都市デザイナー設計事務所）
 - ・ イケア本社（世界最大の家具量販店の本社社屋）
世界最高水準の環境配慮型ビルディング。英国BREEAM最高ランク。

付 6 . 広報事業

付6 広報事業

1. ファシリティマネジメントに関する広報事業

ファシリティマネジメントに関する広報を目的として、ホームページの開設運用、メールマガジンの定期的な発行、機関誌の定期的な発行、新聞雑誌等マスコミへの広告、ファシリティマネジメントフォーラムを活用した情報発信と展示会及び地方自治体等公共機関への訪問、広報等を行った。

2. 機関誌「JFMAジャーナル」の定期的な発行

「JFMAジャーナル」は、FMに関する最新情報を特集形式で取り上げ、FMの本質と時代性を反映させると共に、JFMAからのメッセージを発信している。特にFM知識・情報の集積と保存性を考慮すると共に、内容の読み易さ、理解のし易さ、美しさを考慮したデザインを目指している。

今期は春号（4月）、夏号（7月）、秋号（10月）及び冬号（1月）の年4回季刊誌を発行し、会員に頒布した。

春号 No.190（3,200部）

特集 ファシリティマネジメントフォーラム 2018 特集号
第12回 日本ファシリティマネジメント大会

夏号 No.191（3,200部）

特集 さまざまな施設をマネジメントする
空港、商業施設、ホテル、水族館、サービス付き高齢者向け住宅の管理の実例から

秋号 No.192（3,100部）

特集 まちづくりをマネジメントする
ソフトとハードの両輪で利用者のハッピーをつくる

冬号 No.193（3,700部）

特集 北欧のFMから何を学ぶか / 防災・減災

3. Web版「JFMAジャーナル・オンライン」の運用

紙ベースの機関紙「JFMAジャーナル」が年4回、季刊で発行するが、JFMAからの周知事項、会員情報等をタイムリーに知らせる必要がある。そのために、インターネットを利用し、毎月Web上にタイムリーな情報を掲載する「JFMAジャーナル・ONLINE」を運用し、「JFMAジャーナル」のトピックスを中心に紹介するとともに、コラム「FM玉手箱」やセミナー報告などタイムリーな情報の提供を行った。

4. ホームページの運用

わが国を代表するファシリティマネジメント関連組織として、JFMAホームページは、平成30年度末実績で年間90万回のアクセスのあるウェブサイトとなっている。ファシリティマネジメントに関する情報、JFMAの主要な事業や行事に関する情報、調査研究成果に関する情報等の発信、各種提言内容の周知等を行うと共に、JFMAが蓄積した各種のファシリティマネジメント関連情報の検索、会員相互の情報交換の場として活用されている。

今期も引き続き、タイムリーな改定を行い、常に新鮮な情報の提供を行った。ホームページの主な構成は、次のとおりである。

（1）ファシリティマネジメント（FM）とは

- ① FMとはどのようなものか
- ② FMの必要性
- ③ FMの効果

- (2) 協会概要
 - ① 事業概要
 - ② 基本情報及び組織
 - ③ 定款・公開資料
- (3) J F M A 会員
 - ① 制度のご案内と特典
 - ② 会員一覧
 - ③ 入会お申込み
 - ④ 会員登録情報のさら改
- (4) 認定ファシリティマネジャー資格
 - ① 概要
 - ② 資格者データ
 - ③ 資格試験
 - ④ 新規資格登録申請
 - ⑤ 登録資格さら新
 - ⑥ I F M A / C F M 相互認証制度
 - ⑦ 資格登録情報の変さら
 - ⑧ 求人情報
- (5) セミナー・報告会
 - ① ウィークリーセミナー
 - ・参加申込
 - ・開催記録
 - ② F M 上級セミナー
 - ③ F M 初級スクール
 - ④ 専門分野別セミナー（調査研究部会公開セミナー、F M 財務評価セミナー）
 - ⑤ 各種企画セミナー
- (6) 調査研究
 - ① 調査研究
 - ② 各研究部会・参加申込
- (7) ファシリティマネジメントフォーラム
 - ① ご案内と開催記録
- (8) J F M A 賞
 - ① 第 13 回日本ファシリティマネジメント大賞（J F M A 賞）受賞者発表
 - ② 応募要項
 - ③ 過去の日本ファシリティマネジメント大賞（J F M A 賞）の受賞者
- (9) 書籍・報告書
 - ① 書籍紹介
 - ② ご購入お申込み
- (10) 機関誌
 - ① 新着情報
 - ② J F M A J O U R N A L（ジャフマジャーナル）公開版 最新号
 - ③ バックナンバー
- (11) メールマガジン
 - ① ご案内
 - ② メンバー登録と配信先変更届け等
- (12) お問い合わせ
- (13) 事務局案内地図
- (14) サイトマップ

5. メールマガジンの定期的な発行

ファシリティマネジメントに関する最新情報を、一般向けメールマガジン「J F M A I L」として月平均 2 回、約 6,000 人の登録者へ合計 21 回発信した。

公共機関関係向けのメールマガジン「公共 F M 推進ネット」は毎月、256 団体の地方自治体等登録者約 257 人へ合計 13 回発信した。

年間の読者数は、「J F M A I L」が延べ約 144,000 人、「公共 F M 推進ネット」が延べ約 3,300 人と推定できる。

案内する情報の詳細は、J F M A ホームページにより掲載されているが、メールマガジンで

は最新の内容を簡潔に案内することにより、価値ある情報に利用者がアクセスしやすいように配慮している。

6. 「ファシリティマネジメントフォーラム 2019」のスポンサー募集とガイドブック等発行

「ファシリティマネジメントフォーラム 2019」開催にあたり、会員及び会員以外の企業を対象とし、48 社より数種類のスポンサー（ダイヤモンド、ゴールド、シルバー）を募った。

フォーラムの参加者配布用に作成する「ガイドブック」には、セミナープログラム、セミナー概要や J F M A 賞受賞案件概要のほか、スポンサー企業の広告（企業のロゴと名称）を掲載し、スポンサーの広告は、フォーラム期間中、数枚のパネルに掲載し、会場内に掲示するとともに、ホームページに掲載した。パネルは 1 枚をフォーラム終了後一年間、J F M A 事務局の会議室壁面に継続掲示する。

ホームページでは、スポンサー企業のホームページとリンクさせた。

J F M A I L の平成 31 年 1 月から 3 月に発信する本文に、スポンサー協賛の各社社名を種類ごとに掲載した。

今期は、下記のとおり実施した。

(1) スポンサー（48 社）

種類	名称
ダイヤモンド 11 社	イオンディライト(株)/(株) イトーキ/(株) 内田洋行/(株) N T T ファシリティーズ/ (株) FM システム/JR 東日本ビルテック(株)/大成建設(株)/プロパティデータバンク (株)/三井不動産(株)/三菱地所(株)/森ビル(株)
ゴールド 17 社	イナバイインターナショナル(株)/(株) ウフル/N T T 都市開発(株)/(株) オカムラ 鹿島建設(株)/コクヨ(株)/(株) ザイマックス/三機工業(株)/住友セメントシステム 開発(株)/高砂熱学工業(株)/(株) 竹中工務店/日本郵政(株)/日本メックス株式 会社/日比谷総合設備(株)/福井コンピュータアーキテクト(株)/プラス(株)/ (株) 山下 P M C
シルバー 20 社	(株) Offisis/(株) 構造計画研究所/コニカミノルタ(株)/(株) コンステックホールディン グス/澁澤ファシリティーズ(株)/ジョーンズラングラサール(株)/新日本空調(株) (株) スターメンテナンサポート/総合警備保障(株)/大星ビル管理(株)/東京美装 興業(株)/ダイダン(株)/(株) ディー・サイン/東急不動産(株)/東京ガス都市開発 (株)/(株) 日建設計/(株) 日本設計/(株) ビケンテクノ/ファシリティパートナーズ(株)/ リコージャパン(株)

- (2) ガイドブック スポンサー広告を掲載するガイドブック 3,000 部発行
- (3) 広告パネル スポンサー広告を掲載するパネル 3 枚作成し期間中会場に掲示
1 枚は持ち帰り J F M A 事務局会議室に一年間掲示
- (4) ホームページ 平成 31 年 1 月～3 月、スポンサー広告はホームページに掲載し、
各企業ホームページとリンクを設定した
- (5) 機関紙 平成 31 年春号機関紙「J F M A ジャーナル」にスポンサー広告
を掲載

付 7. 交流事業

付 7 交流事業

今期は、主として下記の交流を行った。

(1) ファシリティマネジメントフォーラムにおける交流

ファシリティマネジメントフォーラム 2019 ネットワーキングパーティ

日 時	平成 31 年 2 月 21 日 (木) 18 時 30 分～20 時 00 分
会 場	タワーホール船堀 瑞雲の間
参加者	343 名
内 容	J FMA 賞受賞祝賀会を兼ね、経済産業省、国土交通省からの来賓、グローバル FM サミットに参加する香港、韓国、中国、タイ、マレーシアの FM 協会関係者、J FMA 役員、J FMA 賞受賞者らがゲストとして参加。 一般のフォーラム来場者、法人会員、個人会員等との交流会を実施。

(2) 海外の FM 関連団体との交流

① 欧州最大の FM 組織ネットワーク、Euro FM の国際大会 (EFMC : European Facility Management Conference 2018) への参加

主 催 : European FM Network

期 間 : 平成 30 年 6 月 5 日 (火)～同月 7 日 (木)

場 所 : ブルガリア・ソフィア市

参加者 : 松岡利昌氏 (J FMA 理事)、川村正夫 (J FMA ISO 推進部長)

概 要 : パネルディスカッションにてモデレータ役を担当。(松岡利昌理事)

FM in Asia というコーナーで公式ガイド作成のプレゼンを実施 (川村正夫)

② K FMA 第 24 回国際シンポジウムへの参加

主 催 : Korea Facility Management Association

日 程 : 平成 30 年 11 月 8 日 (木)

場 所 : ソウル大学

参加者 : 成田一郎 (J FMA 専務理事)、川村正夫 (J FMA ISO 推進部長)

概 要 : 講演① FM に対する日本の取り組み及び J FMA 賞受領事例 (成田一郎)

講演② ISO 41000s に対する日本の取り組みと新たに作成したユーザーズガイドの紹介

③ G E FMA による講演

主 催 : J FMA

日 程 : 平成 31 年 2 月 13 日 (水)

場 所 : J FMA 会議室

講演者 : マイケル・メイ (ベルリン工科大学 教授 Euro FM ドイツ大使)

テーマ : FM におけるデジタル化技術 ～そのヨーロッパでの現況

④ ファシリティマネジメントフォーラム 2019ーグローバル FM サミット

日 時 : 平成 31 年 2 月 21 日 (木)

米国 (I FMA・香港)、韓国 (K FMA)、マレーシア (MAoFM)、中国 (Y PMA)

タイ (T FMA) から FM に携わる関係者が来日、各国の最新 FM 事情を発表し、意見交換を行った。

(3) その他

国内 FM 関連団体 (北海道 FM 協会、四国 FM 協会他)、学会、大学、地方公共団体等とセミナー等で交流した。